

Ⅱ 学術活動および院内諸活動

1. 著 書

診療科名：感染対策室

著者名	著書名	出版社	出版年月
多湖ゆかり	INFECTION CONTROL 4 「新人研修 成功のための戦略Tips9」 (プランナー) 「中規模病院、自治体病院での新入職者研修 Tips3」(執筆)	メディカ出版	2020. 4. 1
多湖ゆかり	iPacLetter volume30 「ICT/ASTレポート」	杏林製薬株式会社	
多湖ゆかり	INFECTION CONTROL 2021年春季増刊 「あなたの「知りたかった！」に答えます！ 新型コロナウイルス対策Q&A 68」(執筆)	メディカ出版	2021. 2. 5

2. 論文

診療科名：呼吸器内科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Hamada S, Ueki S, Miyabe Y, Tsukino M, Hirai T	Focal eosinophilic myositis with Charcot-Leyden crystal formation.	Allergology international: official journal of the Japanese Society of Allergology.	pii: S1323-8930(20)30041-1.	2020 Apr
Hamao N, Ito I, Konishi S, Tanabe N, Shirata M, Oi I, Tsukino M, Matsumoto H, Yasutomo Y, Kadowaki S, Hirai T	Comparison of ceftriaxone plus macrolide and ampicillin/sulbactam plus macrolide in treatment for patients with community-acquired pneumonia without risk factors for aspiration: an open-label, quasi-randomized, controlled trial.	BMC pulmonary medicine.	doi: 10.1186/s12890-020-01198-4.	2020 Jun

診療科名：消化器外科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
神頭聡 竹治智 岡村見 崎久保守人 龍見謙太郎 安田誠一 川部篤	他臓器浸潤を伴う横行結腸癌に対して術前mFOLFOXIRI+Bevacizumab療法を施行し根治切除が得られた1例	癌と化学療法 (0385-0684)	47巻10号 P1, 517-1, 520	2020. 10月

診療科名：整形外科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
光石直史	小児Phalangeal Neck Fractureに対するIntrafocal Pining の経験	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	P571-P572 Vol. 63 No. 4	2020年
光石直史	小児脛骨粗面剥離骨折の3例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	P863-P864 Vol. 63 No. 6	2020年

診療科名：脳神経外科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Hideo Chihara, Hiro Kiyosue, Shuuichi Tanoue, Satomi Ide, Takenori Ogura, Yuji Agawa, Taketo Hatano,	Fenestration of the cavernous internal carotid artery associated with a persistent primitive trigeminal artery	Interventional Neuroradiology	Online ahead of print	2021. 3. 19 accept, 2021. 4. 20 online

診療科名：皮膚科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Tezuka Y, Sekine O, Hirano A, Hanada Y, Nakanishi I, Ariga M, Azuma C, Yamamoto Y, Ito-Kobayashi J, Washiyama M, Iwanishi M, Furuta M, Kanamori M, Shimatsu A, Kashiwagi A	A Prospective, Open-Label Short-Term Pilot Study on Modification of the Skin Hydration Status During Treatment With a Sodium-Glucose Cotransporter-2 Inhibitor	Diabetes Ther 12(1)	431-440	2021 Jan

診療科名：形成外科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
加古絢子 田中義人 櫻井裕章 堀内あい 伊藤文人 楠本健司 稲葉真由美	石灰化を伴った乳房巨大脂肪腫の1例	形成外科	Vol. 63, 1322-1328	2020年

診療科名：麻酔科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
杉本保之 竹田叶佳 石川ゆうこ 古野雅恵 石原蓉子 高淵聡史	麻酔管理下で片側性気管支痙攣を発症した耳鼻咽喉科手術の2症例	臨床麻酔	45巻3号 P495-P497	2021. 3月

診療科名：病理診断科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
Shintaku M, Kikuchi R	Benign notochordal cell tumor of the lung: Report of a case.	Pathol Int	70(11): P871-P875	2020年
Shintaku M, Ohta M, Okuno T.	Pulmonary carcinoma showing shadow cell differentiation and nuclear β -catenin accumulation: Report of a case.	Pathol Int	71(2): P167-P169	2021年

診療科名：臨床検査科

執筆者名	論文名	掲載誌名	掲載場所	発行年月
田邊正喜	多発性骨髄腫の検査	日本検査血液学会雑誌	第21巻第3号 P365-P371	2020. 11月

3. 学会発表

診療科名：循環器内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
天谷直貴	ここまで進んだ心房細動治療 ～カテーテルアブレーションと抗凝固 療法～	不整脈フォーラム	くすのきセンター	2020. 9. 5
下司徹 野村量平 眞鍋奈緒美 高橋宏輔 梶本晃 宮澤豪 天谷直貴 中野顯	Cutting balloonによるlesion preparationが有用であった左前下行枝 分岐部病変の一例	第36回日本心血管 インターベンション 治療学会近畿地方会	Web参加	2021. 2. 27
中野顯	インターベンション関連の出血性合併症 をいかに減らすか	第36回日本心血管 インターベンション 治療学会近畿地方会	Web参加	2021. 2. 27

診療科名：呼吸器内科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	胸壁浸潤を伴う肺癌の術後に肺塞栓を 発症した一例	第61回日本肺癌学会 学術集会	岡山シティミュージ アム	2020. 11. 12
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	被膜外への浸潤がなく増大した巨大胸腺 腫の一例	第61回日本肺癌学会 学術集会	岡山シティミュージ アム	2020. 11. 12

診療科名：呼吸器外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	右B1の分岐異常を合併し長期間フォロー アップされたGG0を呈する肺癌の一例	第43回日本呼吸器 内視鏡学会学術集会	旭川市民文化会館	2020. 6. 26 ～27
林栄一	Limited Resection for Primary Lung Cancer in Patients over 75 Years of Age in Our Department	第73回日本胸部外科 学会定期学術集会	名古屋国際会議場	2020. 10. 29 ～11. 1
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	被膜外への浸潤がなく増大した巨大胸腺 腫一例	第61回日本肺癌学会 学術集会	岡山コンベンション センター、 ホテルグランヴィア 岡山	2020. 11. 12 ～14
林栄一 岡本菜摘 奥野雄大 渡邊勇夫 月野光博	胸壁浸潤を伴う肺癌の術後に肺塞栓を 発症した一例	第61回日本肺癌学会 学術集会	岡山コンベンション センター、 ホテルグランヴィア 岡山	2020. 11. 12 ～14

診療科名：消化器外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
○龍見謙太郎 井上英信 崎久保守人 安田誠一 川部篤	腸重積により肛門外脱出をきたしたS状結腸脂肪腫の1例	第117回滋賀県外科医会	Web開催	2020. 10. 10

診療科名：整形外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
光石直史	小児Phalangeal Neck Fractureに対するIntrafocal Pining の経験	第134回中部日本整形外科災害外科学会	紙面発表による開催	2020. 4. 10 ～11
光石直史	小児脛骨粗面剥離骨折の3例	第134回中部日本整形外科災害外科学会	紙面発表による開催	2020. 4. 10 ～11
○角田恒 堀裕彦 光石直史 西村康平 小川貴大 澤田修太郎 秋山治彦	当院におけるTKA患者・術前因子についての検討	第107回岐阜県整形外科学術集会	岐阜	2021. 1月

診療科名：泌尿器科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
出口真央 佐野太一 城文泰 長谷行洋	膀胱カルチノイドの1例	第37回滋賀泌尿器科集談会	ホテルボストン プラザ草津	2020. 10. 31

診療科名：脳神経外科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
千原英夫	AtlasとTacticsの特性を活かした通好みのStent-Assisted Coil Embolization	INAC Fine Seminar on	online	2020. 12. 11
千原英夫	distal migrationしたコイルをStent retrieverで回収 ～ ” i ” をとりもどせ!! ～	INAC Fine Seminar on the Web	online	2021. 3. 12

診療科名：皮膚科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
古田未征 加太美保	当科におけるアトピー性皮膚炎患者に対するデュピルマブの使用経験	第464回京滋地方会	滋賀医科大学	2020. 10. 3

診療科名：診療局(研修医)

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
TAKUYA INOUE	Rupture of Tuberculous Thoracic and Abdominal Aortic Aneurysm after Intravesical Instillations of BCG Therapy ※英語での発表	第84回日本循環器学会学術集会	Web を用いた オンライン学術集会	2020. 7. 27 ～2020. 8. 2 ※On Demandのため特定の発表日はない

診療科名：臨床検査科

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
田邊正喜	多発性骨髄腫の検査	第21回日本検査血液学会学術集会	Web開催	2020. 7. 11
伊藤恵利香	ホルター心電図検査において心停止に至るまでの経時的変化を捉えられた1例	第43回滋賀県医学検査学会開催	Web開催	2021. 3. 14

診療科名：薬剤部

発表者名	演題	学会名	会場	発表年月
横幕香織 中村真樹 米谷領太 茂籠茂彦 近藤博紀 大野勝則	対人業務の割合向上を目指した薬剤部 対物業務システム化の効果	第30回日本医療薬学会年会	Web開催	2020. 10. 24 ～11. 1
中村真樹 横幕香織 茂籠茂彦 近藤博紀 大野勝則 横幕香織	医療情報技師薬剤師による医療情報 システム研修を受けた内容と成果	第30回日本医療薬学会年会	Web開催	2020. 10. 24 ～11. 1

4. 講演

診療科名：消化器内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
來住優輝	消化器疾患の症状と診断	第4回湖東うつ病研究会	ホテルサンルート彦根	2020. 12. 3
森田幸弘	Helicobacter pylori除菌と除菌後胃がんの特徴	湖北・湖東消化器疾患セミナー	オンライン講演会 ZOOM接続	2020. 12. 17
糸井啓之	治療に難渋しているステロイド依存性潰瘍性大腸炎について	東近江・彦根IBDカンファレンス	オンライン	2021. 3. 4

診療科名：腫瘍内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
竹治智	保険薬局の薬剤師さんに期待すること	湖東医療圏がん薬物療法病薬連携セミナー	くすのきセンター	2020. 7. 30
竹治智	消化器がん薬物療法に関する最近の話題	第225回彦根消化器談話会	くすのきセンター	2020. 9. 8

診療科名：糖尿病・代謝内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
黒江彰	最近の糖尿病治療に関する話題から～心腎保護を検討した治療戦略～	彦根医師会学術講演会	くすのきセンター	2020. 7. 18
黒江彰	糖尿病診療における今後の展望	滋賀県糖尿病WEB講演会	彦根キャッスルリゾート&スパで収録	2020. 7. 29
黒江彰	新規注射剤の使用経験	SOLQUA National Pioneer Concert	クサツエストピアホテル	2020. 9. 12
黒江彰	メトホルミンのベストパートナーは何か	大津市医師会サタディセミナーパート1	琵琶湖ホテル	2020. 9. 19
黒江彰	COVID-19と糖尿病治療について	糖尿病・内分泌疾患リモートセミナーin 滋賀	ネット	2020. 10. 1
黒江彰	高尿酸血症の病態と治療	彦根薬剤師会研修会	くすのきセンター	2020. 10. 15
黒江彰	2型糖尿病におけるGLP-1受容体作動薬の意義	GLP-1 RA Online Seminar	くすのきセンターで収録	2020. 11. 26
黒江彰	GLP-1受容体作動薬の今、そして未来を考える	Incretin Online Seminar in Shiga	彦根キャッスルリゾート&スパ	2020. 12. 10
黒江彰	当院における新規糖尿病注射薬の症例	Diabetes Expert Seminar	TKPガーデンシティ京都	2020. 12. 18
黒江彰	当院における新規糖尿病注射薬の症例	Diabetes Expert Seminar	ホテルニューオウミ	2021. 2. 17
黒江彰	腎性貧血治療における新たな展開	医療連携を考える会 in 彦根	北ビワコホテルグライツィエ	2021. 3. 20

診療科名：循環器内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
中野 顯	ガイドラインに基づいた心不全診療のポイント	福井県内科医会学術講演会	福井市	2020. 7. 4
中野 顯	虚血性心疾患 Up to date	第205回滋賀県病院薬剤師会研修会	彦根市	2020. 8. 27
中野 顯	PCI関連の出血合併症をいかに減らすか	Cabpirin web seminar 2020	Web参加	2020. 9. 9
中野 顯	PCI関連の出血合併症をいかに減らすか	湖北湖東Cabpirin web seminar 2020	Web参加	2020. 10. 22
中野 顯	SHIFT試験結果を実臨床でどう活かすか	明日から活かせる糖尿病治療セミナー	Web参加	2020. 10. 23
中野 顯	心血管イベント抑制を目指した生活習慣病の複合的管理	第239回彦根循環器談話会	彦根市	2020. 11. 4
中野 顯	循環器領域における糖尿病治療の新しいアプローチ	明日から活かせる糖尿病治療セミナー	Web参加	2020. 11. 19
中野 顯	うまくいかなかった高度石灰化LMT症例	第31回SCIC	大津市	2020. 12. 5
中野 顯	心不全治療に対する新たなアプローチ	Cabpirin 発売記念講演会	大津市	2020. 12. 16
中野 顯	心不全治療の新たな治療戦略 SGLT2阻害薬への期待	Forxiga Online symposium 2021	Web参加	2021. 1. 18
下司 徹	SGLT2阻害薬による新たな心不全治療	彦根医師会学術講演会	くすのきセンター	2021. 1. 30
中野 顯	PCIにおける出血性合併症対策	循環器疾患フォーラム	Web参加	2021. 2. 15
下司 徹	心房細動における血圧管理の重要性	彦根薬剤師会研修会	くすのきセンター	2021. 2. 18
中野 顯	冠動脈インターベンション関連の出血性合併症をいかに減らすか	循環器Web seminar 2021	Web参加	2021. 3. 8

診療科名：呼吸器内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
月野 光博	COVID-19について	滋賀県国民健康保険診療報酬審査委員会学術講演会	滋賀県国保会館	2020. 8. 25
月野 光博	COVID-19について	彦根医師会学術講演会	くすのきセンター	2020. 11. 14
月野 光博	COVID-19について	近江八幡市蒲生郡医師会臨時勉強会	近江八幡地域医療支援センター 会議室	2020. 11. 21

診療科名：緩和ケア内科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
黒丸 尊治	アロマセラピストに必要なホリスティックコミュニケーション	ホリスティックケアプロフェッショナルスクール	ホリスティックケアプロフェッショナルスクール神戸本校(兵庫)	2020. 6. 13
黒丸 尊治	アロマセラピストに必要なホリスティックコミュニケーション	ホリスティックケアプロフェッショナルスクール	NBNビル(名古屋)	2020. 10. 17
黒丸 尊治	コミュニケーション医学の挑戦	NPO法人日本ホリスティック医学協会	築地スタジオ(オンライン)	2020. 11. 15
黒丸 尊治	コミュニケーション医学の実際の可能性	コミュニケーション医学研究会	アスニー山科(京都)	2020. 12. 20

診療科名：小児科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
石上毅	保育現場における食物アレルギー	甲良町アレルギー研修会	甲良東保育センター	2020. 8. 25

診療科名：脳神経外科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
千原英夫	EPICテクニックを駆使した臨床経験	AIS Meet The Expert	online	2020.12. 9

診療科名：放射線科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
上村三四郎	放射線治療部門対象教育訓練	放射線治療勉強会	放射線治療室	2021. 3. 22
上村三四郎	放射線治療部門対象教育訓練 DVD作成	放射線治療勉強会		2021. 3. 31

診療科名：リハビリテーション科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
西澤一馬	急性期脳卒中理学療法のおすすめ	第2回滋賀県神経理学療法研究会	彦根市立病院	2021. 1. 24
西澤一馬	脳卒中における在宅復帰に向けた リハビリテーション	令和2年度湖東地域脳卒中多職種 学習会	くすのきセンター	2021. 3. 22

診療科名：在宅診療科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
山口智博	橋本進一 『明日から使える老年医療』	令和2年度在宅医療セミナー	彦根市立病院講堂	2020. 10. 8

診療科名：臨床検査科

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
豊川純史	当院における術中迅速組織標本作製	滋賀県臨床検査技師会 第4回病理部門研修会	草津市立まちづくりセンター	2020. 12. 5
福田峻	令和2年度精度管理微生物部会結果報告	令和2年度滋賀県精度管理事業 微生物部会報告会	草津市立まちづくりセンター	2020. 12. 5
黒川陽子	令和2年度精度管理生理部会報告	令和2年度滋賀県精度管理事業生理 部会報告会	Web開催	2020. 12. 11～ 12. 25
山田真以	令和2年度精度管理一般部会結果報告	令和2年度滋賀県精度管理事業一般 部会報告会	Web開催	2020. 12. 23～ 2021. 1. 6
山田真以	基礎から始めよう！円柱類	滋賀県臨床検査技師会 第4回臨床一般部門研修会	Web開催	2021. 1. 24
田邊正喜	造血器腫瘍における最新の分子標的治療 「多発性骨髄腫の治療」	滋賀県臨床血液部門・遺伝子染色 体検査部門合同研修会	Web開催	2021. 2. 13
山田真以	令和2年度精度管理一般部会結果報告	令和2年度滋賀県精度管理事業 全体報告会	Web開催	2021. 2. 27～ 3. 15
西村好博	令和2年度精度管理輸血部会報告会	令和2年度滋賀県精度管理事業 全体報告会	Web開催	2021. 2. 27～ 3. 15
黒川陽子	令和2年度精度管理生理部会報告	令和2年度滋賀県精度管理事業 全体報告会	Web開催	2021. 2. 27～ 3. 15

診療科名：栄養科・栄養治療室

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
大橋佐智子	がん薬物療法患者への栄養サポート	湖東医療圏 がん薬物療法 病薬連携セミナー	くすのきセンター	2020. 7. 30
大橋佐智子	地産地消の効用と可能性	丹後食育フォーラム	野田川わーくぱる (京都府与謝郡)	2020. 10. 23
小野由美 黒江彰	食事療法の実践と課題	糖尿病学の進歩 シンポジウム3 ガイドラインによる糖尿病食事療 法、運動療法の実際	院内からリモート にて講演	2021. 3. 5

診療科名：薬剤部

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
近藤博紀	令和2年度 がん薬物療法 病薬連携 セミナー	令和2年度薬薬連携研修会	くすのきセンター	2020. 7. 30

診療科名：感染対策室

講演者名	演題	講演会名	会場	講演年月
谷久弥	新型コロナウイルス感染症との向き合 い方 第2波到来に備え訪問看護の現 場でできること！	訪問看護の現場における感染症 対策の研修会	くすのきセンター	2020. 8. 20
谷久弥	新型コロナウイルス感染予防策につ いて	新型コロナウイルス感染症対策 研修会	くすのきセンター	2020. 8. 21
谷久弥	感染管理	2020年度リスタートナース サポート研修会	くすのきセンター	2020. 9. 1
谷久弥	①新型コロナウイルスの感染対策 ②正しい个人防护具の着脱実技 ③ ゾーニングとは ④ 実際の施設を使つてのゾーニング指導	令和2年度高齢者介護施設における ゾーニング指導研修会	介護老人保健施設 アロフェンテ彦根	2020. 10. 6
谷久弥	感染管理（手洗い、PPE、消毒）	彦根市立病院リスタートナース サポート研修	本院3-2会議室	2020. 10. 12
谷久弥	新型コロナウイルス感染症の 基礎知識と対策(防護具の着脱)	新型コロナウイルス感染症に かかる在宅生活困難障害者等支援 事業対応スタッフのための感染 対策研修会	彦根市障害者福祉 センター	2020. 12. 10

5. 院内研究発表

診療科名：糖尿病・代謝内科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
矢野秀樹	定年記念講演会	彦根市立病院講堂	2021. 3. 25

診療科名：循環器内科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
下司徹	心臓カテーテル検査の基礎知識と看護のポイント	6階カンファレンスルーム	2020. 7. 29

診療科名：皮膚科

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
力武里奈	水疱性類天疱瘡の一例	研修医症例発表会	2021. 3. 4

診療科名：診療局(研修医)

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
吉田翔希子	心室細動で死亡した一剖検例	彦根市立病院講堂	2020. 12. 17
内山和之	突然死した心アミロイドーシスの一剖検症例	彦根市立病院講堂	2021. 1. 21
吉田翔希子	重症化した消化管アミロイドーシス（AA型）の一例	彦根市立病院講堂	2021. 3. 4
内山和之	小児の多発性関節炎	彦根市立病院講堂	2021. 3. 4

診療科名：栄養科・栄養治療室

発表者名	発表内容	発表場所	発表年月
小野由美	血液浄化センター勉強会 透析患者の食事療法	血液浄化センター	2021. 2. 25

6. 投 稿

診療科名：小児科

投稿者名	投稿内容	掲載場所	掲載年月日
西島節子	子どもと新型コロナウイルス感染症	滋賀県医師会報	2020. 9. 20
西島節子	令和元年度 小児救急医療地域医師研修会 「インフルエンザ～小児におけるけいれんな どの関連疾患～」	滋賀県医師会報	2020. 12. 20

診療科名：緩和ケア内科

投稿者名	投稿内容	掲載場所	掲載年月日
黒丸尊治	コミュニケーション医学の挑戦	ホリスティックニューズレター P10-P11	2020. 10. 23
黒丸尊治	悩みが解決するとき～何が人を癒すのか～	ホリスティックニューズレター マガジン2021 P22-P23	2021. 2. 25

診療科名：栄養科・栄養治療室

投稿者名	投稿内容	掲載場所	掲載年月日
小野由美	日本全国の散歩道 滋賀県の天下の名城 彦根城天守をめざす	月刊 糖尿病ライフ さかえ 第61巻 第3号	

診療科名：感染対策室

投稿者名	投稿内容	掲載場所	掲載年月日
谷久弥	一番星見つけた！ 第5地区支部の地域での 新型コロナウイルス感染症への取り組み	広報誌「ナースレーク149号」	2021. 1. 12

7. その他学術活動

診療科名：消化器内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
來住優輝	座長 第6回滋賀消化器疾患シンポジウム	オンライン	2020. 9. 10
來住優輝	座長 湖北・湖東キャブピリン発売記念WEB講演会	彦根キャッスルリゾート	2020. 10. 22
來住優輝	座長 湖北・湖東消化器疾患セミナー	ホテルサンルート彦根	2020. 12. 17
來住優輝	座長 東近江・彦根IBDカンファレンス	オンライン	2021. 3. 4
來住優輝	座長 湖東・湖北エリアエンタビオフォーラム	彦根キャッスルリゾート	2021. 3. 11

診療科名：腫瘍内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
竹治智	Pancreatic Cancer Seminar in SHIGA	ホテルボストンプラザ 草津（Web配信）	2021. 3. 18

診療科名：糖尿病・代謝内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
矢野秀樹	新臨床研修医勉強会、抄読会	彦根市立病院図書室	2020. 4. 23、 5. 28、6. 25、 7. 23、8. 28、 9. 26、10. 29、 11. 26、12. 24、 2021. 1. 28、 2. 25
黒江彰	座長、評議員など 日本糖尿病学会学術集会	ネット	2020. 10. 5～16
黒江彰	座長 日本糖尿病学会近畿地方会	ネット	2020. 10. 17～ 31
矢野秀樹	座長 新臨床研修医 発表会	彦根市立病院講堂	2021. 3. 4
黒江彰	座長 高齢者トータルケアセミナー ～神経障害性疼痛を考える～ 表題：神経障害性疼痛に対するアプローチ	北ビワコホテル グラツィエ	2021. 3. 18

診療科名：循環器内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
天谷直貴	第84回日本循環器学会学術集会 一般演題口述（日本語） AF Ablation Method/Postoperative AT	Web開催	2020. 7. 27～ 8. 2
天谷直貴	座長 第84回日本循環器学会学術集会 ポスターセッション（英語） Venous Thromboembolism	Web開催	2020. 7. 27～ 8. 2
中野顯	座長 不整脈治療フォーラム	彦根市	2020. 9. 5
下司徹	日本新薬社内勉強会（症例報告）	Web講演	2020. 9. 28
中野顯	座長 第35回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会	Web参加	2020. 10. 10
中野顯	カテーテル治療	福井大学医学部附属病院	2020. 10. 16
中野顯	学生講義	滋賀県立大学看護学科	2020. 11. 12
中野顯	学生講義	滋賀県立大学看護学科	2020. 11. 19
中野顯	コメンテーター OmniWire座談会	Web参加	2020. 12. 2
中野顯	座長 草津ハートカンファレンス	草津市	2020. 12. 3
中野顯	コメンテーター 慢性心不全の新たな治療戦略を企てる	草津市	2020. 12. 4
下司徹	コメンテーター 近畿心血管ジョイントライブ （KCJL 2020）	Web参加	2020. 12. 19
中野顯	座長 循環器フォーラム	彦根市	2021. 1. 23
中野顯	座長 抗血栓シンポジウム	Web参加	2021. 2. 25
中野顯	座長 第36回日本心血管インターベンション治療学会 近畿地方会	Web参加	2021. 2. 27
下司徹	コメンテーター 第36回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	Web参加	2021. 2. 27
天谷直貴	次世代循環器内科の集い Discussant 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教 中川 靖章 先生 「慢性心不全治療の新たな幕開け」	Web開催	2021. 3. 5
中野顯	座長 第85回日本循環器学会学術集会	横浜市	2021. 3. 27

診療科名：呼吸器内科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
岡本菜摘	倫理委員会への研究申請 彦研倫 2020-02		2020. 11月～ 2021. 3月

診療科名：小児科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
石上毅	講義 疾病・障害論 I（小児科学）	聖泉大学看護学部 （遠隔）	2021. 6. 30、 7. 7、7. 14
西島節子	令和2年度小児救急地域医師研修会 「子どもの脱水の評価と対応」	DVD・資料配布	2020. 11月～ 2021. 3月

診療科名：呼吸器外科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
林栄一	術後管理について	6 B	2020. 7. 10
林栄一	術後管理について	4 B	2020. 7. 17

診療科名：整形外科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
光石直史	令和2年度 岐阜大学 医学部 運動器コース 下肢外傷 1. 2	オンラインにて	2020. 6月

診療科名：皮膚科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
古田未征	座長 第464回京滋地方会	滋賀医科大学	2020. 10. 3

診療科名：病理診断科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
太田諒	講義 病態発生学I 「消化管」頭頸部：口腔、唾液腺、咽頭、喉頭、甲状腺	滋賀医科大学 (COVID-19のため講義資料のみ提供, 2時限分)	2020. 5月
新宅雅幸	講義 病態発生学I 脳腫瘍の病理	滋賀医科大学 (COVID-19のため講義資料のみ提供, 2時限分)	2020. 5月
太田諒	講義 病態論 I (総論)	公立若狭高等看護学院	2020. 10. 7 2020. 10. 14 2020. 10. 21 2020. 10. 28 2020. 11. 11 2020. 11. 25 2020. 12. 2

診療科名：栄養科・栄養治療室

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
小野由美 大橋佐智子	滋賀県糖尿協会 事務局	彦根市立病院 栄養治療室	2016. 2月～
大橋佐智子	都市農山漁村交流活性化機構 コーディネーター育成・派遣事業 企画委員会	一般財団法人 都市農山漁村交流活性化 機構 (東京・神田)	2016. 6月～
大橋佐智子	都市農山漁村交流活性化機構 コーディネーター育成・派遣事業 企画委員会	オンライン会議	2020. 7. 17
小野由美 大橋佐智子 木村章子	CDE滋賀認定委員会 理事・役員		
振角英子	糖尿病患者会 彦根みずうみの会 事務局	彦根市立病院 栄養治療室	
	地産地消「農家の声聞き病院食に磨き」	日本農業新聞 掲載	2020. 12. 5

診療科名：臨床工学科

活動者名	活動内容	活動場所	活動年月日
青野多聞	第30回日本臨床工学会 パネルディスカッション4 「臨床工学技士の時間外業務体制を再考する」 ～集え！悩める所属長、出でよ！現場の戦士たち～ 即時対応の迫られる緊急業務と機器の後方支援の両立を目指して ～夜間休日に臨床工学技士が欠かせない理由～	名古屋国際会議場 (Web参加)	2020. 9. 29

8. 研究倫理委員会 審議案件

受付 No.	案件名	申請者
彦研倫 2020-01	生活習慣病を伴う複数疾患を有する高齢者に対する栄養療法支援アプリ作成に関する研究	黒江 彰
彦研倫 2020-02	レジオネラ肺炎診断におけるリボテスト®レジオネラとイムノキャッチ®ーレジオネラの有用性の比較検討 多施設共同前向き観察研究－	岡本 菜摘
彦研倫 2020-03	血栓吸引カテーテルを用いた機械的血栓回収療法の効果と安全性に関する多施設共同登録研究	千原 英夫
彦研倫 2020-04	重症下肢虚血における血管内治療による血行再建術と高気圧酸素療法の併用効果の検討を目的とした多施設非盲検的ランダム化比較試験	宮澤 豪
彦研倫 2020-05	内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）後出血のリスク因子に関する後方視的研究	森田 幸弘
彦研倫 2020-06	京都大学および関連施設における膠芽腫症例に関する後方視的解析	千原 英夫

9. 治験実施報告

令和2年度

製造販売後調査（市販後調査）

内科	0 件
消化器内科	0 件
腫瘍内科	2 件
血液内科	2 件
循環器内科	1 件
呼吸器内科	0 件
呼吸器外科	0 件
脳神経外科	0 件
小児科	0 件
消化器外科	0 件
整形外科	0 件
産婦人科	0 件
泌尿器科	1 件
皮膚科	0 件
麻酔科	0 件
歯科口腔外科	0 件

COVID-19に関するレジストリ研究 1件

10. 臨床病理検討会

彦根市立病院 第46回CPC

日付：2020年12月17日（木）18時00分～18時30分

場所：彦根市立病院 3F 講堂

症例：「心室細動で死亡した一剖検例」

臨床：吉田翔希子、野村量平

病理：谷村雄太、太田諒

彦根市立病院 第47回CPC

日付：2021年1月21日（木）18時00分～18時30分

場所：彦根市立病院 3F 講堂

症例：「突然死した心アミロイドーシスの一剖検例」

臨床：内山和之、寺本由加子

病理：太田諒

11. 糖尿病教室

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、令和2年度は中止いたしました。

12. 緩和ケア病棟活動

ボランティア活動

内 容	活 動 日	人 数	回 数	使用者数
マッサージ	毎週1回	1	2	11
アロマセラピー①	毎月2回	1	2	11
アロマセラピー②	毎月1回	2	0	0
アロマセラピー③	毎月1回	1	0	0
アロマセラピー④	不定期	3	0	0
リフレクソロジー	毎月2回	1	1	5
アートセラピー	毎月1回	1	1	1
音楽療法	毎月1回	2	0	0
ハーモニカ アニマルセラピー	毎月1回	4	0	0
傾聴	毎月1回	1	0	0
ティーサービス①	不定期	2	0	0
ティーサービス②	不定期	1	0	0
県大未来看護塾 (ティーサービス)	不定期	2	0	0
計		22	6	28
月平均			0.46	2.15

レクリエーション活動

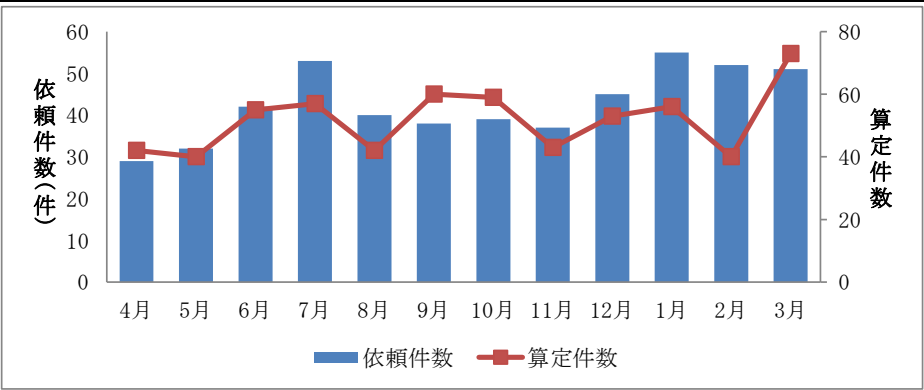
月	行 事	内 容	参加人数
4月	お花見	病院敷地内でお花見 栄養科による桜ムース	16名
8月	夏祭り	はっぴに江州音頭で屋台を引き各部屋訪問 ゼリーすくい 栄養科によるたこ焼き、スムージー、シャーベット	8名
10月	お茶会	各部屋訪問し秋の歌のコーラス お抹茶を提供 栄養科による芋ようかん、さつまいもプリン	13名
12月	クリスマス会	各部屋訪問しハンドベル演奏 サンタからクリスマスカードの配布 栄養科によるクリスマスツリーケーキ	9名

13.NST（栄養サポートチーム）実績表

NSTカンファレンス実施回数 46回

NST依頼・算定件数

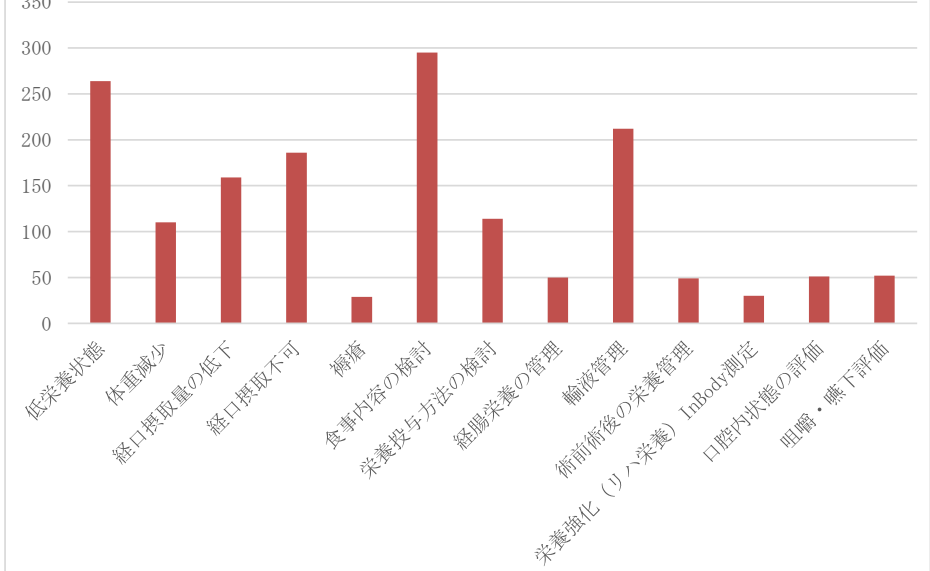
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼件数	29	32	42	53	40	38	39	37	45	55	52	51	513
算定件数	42	40	55	57	42	60	59	43	53	56	40	73	620



●介入依頼理由

低栄養状態	264
体重減少	110
経口摂取量の低下	159
経口摂取不可	186
褥瘡	29
食事内容の検討	295
栄養投与方法の検討	114
経腸栄養の管理	50
輸液管理	212
術前術後の栄養管理	49
栄養強化（リハ栄養）	30
InBody測定	51
口腔内状態の評価	52
咀嚼・嚥下評価	52
合計	1,601

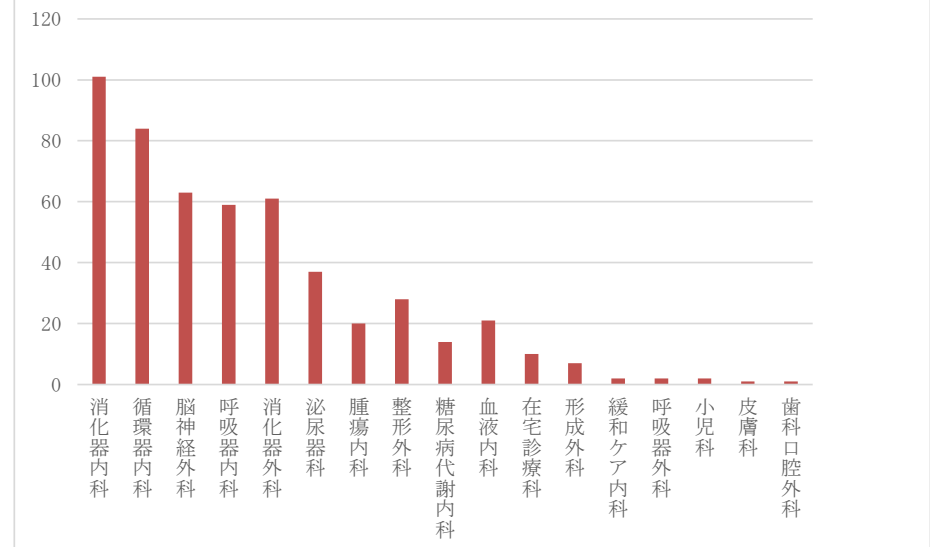
介入依頼理由（複数選択あり）



●診療科別依頼件数

消化器内科	101
循環器内科	84
脳神経外科	63
呼吸器内科	59
消化器外科	61
泌尿器科	37
腫瘍内科	20
整形外科	28
糖尿病代謝内科	14
血液内科	21
在宅診療科	10
形成外科	7
緩和ケア内科	2
呼吸器外科	2
小児科	2
皮膚科	1
歯科口腔外科	1
合計	513

診療科別依頼件数



14. 人権研修実績

研 修 名	実 施 日
推進委員会研修	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
職員集合研修1	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
職員集合研修2	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
新規採用職員採用前研修	令和3年3月15日
人権を考える日研修	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
人権のまちづくり懇談会	各町毎の設定日時

15-1. DMAT 隊員情報（令和 2 年度）

	氏名	職種	所属
1	福田 成代	看護師	5B 病棟
2	岡田 恵理	看護師	救急センター
3	安田 誠一	医師	消化器外科
4	伊藤 文人	医師	形成外科
5	飛田 貴史	看護師	7A 病棟
6	佐伯 公亮	看護師	医療安全推進室
7	田邊 正喜	業務調整員	臨床検査科
8	馬場 敏行	業務調整員	臨床工学科
9	杉本 保之	医師	麻酔科
10	吉川 浩平	医師	救急センター
11	北野 貴司	看護師	救急センター
12	秋宗 美紀	看護師	8B 病棟
13	北川 岳史	業務調整員	リハビリテーション科
14	神田 健志	医師	小児科
15	奥野 雄大	医師	呼吸器内科
16	柴崎 志保	看護師	6A 病棟
17	豊田 円香	看護師	ICU
18	二階堂 邦夫	業務調整員	5A 病棟
19	窪田 智子	業務調整員	放射線科

15-2. DMAT 活動

	日付	内容	場所	出席者
1	9. 10(木)	第 2 回滋賀県 DMAT 部会企画 PT 会議	滋賀県危機管理 センター	佐伯
2	9. 20(日)	滋賀県総合防災訓練	東近江市総合運動 公園布引体育館	佐伯
3	10. 25(日)	滋賀県災害医療 コーディネーター研修	滋賀県危機管理 センター	北野、窪田
4	12. 3 (木)	第 3 回滋賀県 DMAT 部会企画 PT 会議	滋賀県危機管理 センター	佐伯
5	3. 9 (火)	滋賀県災害医療体制連絡 協議会・DMAT 部会	滋賀県危機管理 センター(ZOOM 参加)	佐伯、窪田、 粕渕
6	3. 22 (月)	都道府県災害医療コ―ディ ネーター研修	オンデマンド配信	安田
7	3. 26 (金)	滋賀県原子力災害医療体制 検討委員会	滋賀県危機管理 センター(ZOOM 参加)	吉川

令和 2 年度 彦根市立病院大規模災害訓練について

彦根市立病院 DMAT 安田誠一

令和 2 年度の院内大規模災害訓練は 11 月 14 日に行われました。例年は多数傷病者の搬入搬出訓練を行っていましたが、昨年度は新型コロナウイルスの影響でボランティアの方に手伝っていただくことはできず、できるだけ人数を制限し規模を縮小する方向で検討しておりました。今までの訓練は本部を中心とした指揮命令系統の確立をはじめとした災害医療における CSCA に重点をおいたものでしたが、今回は実際に行う医療活動（TTT）に重点をおいた訓練とすることとし、いくつかのシナリオを設定したメディカルラリー形式で、少し遊びの要素も入れたものとなりました。

今回、災害医療にも関連して、①黄色エリアでの本部との情報共有を含めた医療活動 ②多数傷病者のトリアージ ③小児外傷患者への対応 ④心肺停止患者への初期対応 ⑤トランシーバーの使い方 といった 5 つのシナリオを設定しました。プレーヤーは、実際に最前線で活動するであろう若手を中心とした医師 1 名とナース 3 名のチーム、計 5 チームで点数を競っていただくことになりました。われわれの基本姿勢としては、参加していただける方が少しでも訓練に参加してよかったと感じてもらえるようなものにしたいという思いがあり、各シナリオの要点をあらかじめ各チームのメンバーに周知して訓練までに予習をしていただくことにしました。

そのおかげもあり、各チームとも予想以上の高得点で、役割分担も含めてチームワークを発揮できたように思えます。訓練後の振り返りでも、はじめはかなり緊張もあったようですが、楽しかった、勉強になったという声も聞かれ、例年とは違う形になりましたがコロナ禍においてもとにかく訓練を継続する意義はあったものと考えています。

しかし、やはり TTT については今までなかなか訓練に取り入れることができておらず、特にトリアージの習得度に参加者の間でかなりばらつきがあったことも事実であり、今後 CSCA の訓練とどのように両立させるか問題点も出てきたように思います。BCP の検証や保健所、他病院との連携、放射線災害対応などさまざまな課題がある中、今後もすべきことを少しずつ進めていきたいと考えています。

16. 彦根市立病院健康講座

令和2年度実施なし

17-1. 看護部の活動

院外研修

No.	日 付	所 属	氏 名	出 張 先	セ ミ ナ ー 名	主 催 名
1	6. 20	看護部	坂東 恵美子	滋賀県看護協会	令和2年度滋賀県看護協会 通常総会	滋賀県看護協会
2	6. 20～21	地域連携	小川 多恵子	早稲田キャンパス19号館	医療メディエーター養成講座	
3	7. 21	地域連携	小川 多恵子	草津市立まちづくり センター309号室	アディクション関連セミナーに 関する講義	
4	8. 1	6B	堤 周作	オンラインセミナー	「重症度、医療、看護必要度」 評価者及び院内指導者研修	日本臨床看護マネジ メント学会 ヴェクソンインター ナショナル（株）
		7A	飛田 貴史			
		8A	重松 佐知子			
		救急	菱田 継子			
		手術センター	二階堂 邦夫			
5	8. 1	患者家族支援	中居 由美子	滋賀県看護研修センター	看護基礎教育および在宅看護教育を 考える 教育・臨地合同研修会	滋賀県看護協会
		患者家族支援	古川 沙織			
6	8. 4～5	8A	岡田 美穂	滋賀県看護協会	【災害支援ナース育成研修 （基礎編）】 JNA収録DVD研修 災害支援ナースの第一歩 ～災害看護の基礎知識～	滋賀県看護協会
7	8. 10	2A	山崎 多恵	滋賀医科大学付属病院	厚生労働省ECMOチーム等養成研修 事業（人工呼吸・ECMO講習会）	厚生労働省
		2A	宮氏 美佳			
8	8. 18	7A	冷牟田 千花	滋賀県看護研修センター	実習指導のいろは ～学生と共に成長し、やりがいを 感じられる実習指導～	滋賀県看護協会
		8B	西村 真美			
		5B	高木 亜美			
		6B	松村 佳奈			
		6B	鳴海 綾乃			
		2A	上大迫 明子			
9	8. 21	7A	西村 まゆみ	滋賀県看護協会	看護倫理 ～意思決定支援における倫理的問題 を解決するために～	滋賀県看護協会
10	8. 28～29	看護部	上村 千馨子	Web参加	第24回日本看護管理学会学術集会	日本看護管理学会
		訪問看護	西村 紀子			
11	9. 8	外来	清水 寿佳	滋賀県看護研修センター	ファシリテーションスキルを学ぼう ～学び合い育ち合う場の作り方～	滋賀県看護協会
12	9. 11～12	訪問看護	西村 紀子	Web参加	第22回日本褥瘡学会学術集会	日本褥瘡学会
13	9. 11～12	地域連携	北川 智美	神戸コンベンションセンター	第22回日本褥瘡学会学術集会 （発表）	日本褥瘡学会
14	9. 12	外来	藤田 晶子	滋賀県看護協会	マネジメントラダーに基づく研修 みんなで考えよう災害 その時、あなたは指揮できますか	滋賀県看護協会
		外来	深尾 直子			
15	9. 15～16	7B	上野 弘喜	滋賀県看護研修センター	令和2年度入退院支援看護師養成 研修会	滋賀県看護協会
16	9. 16	7A	福山 愛華	滋賀県看護研修センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
		4B	今宿 七海			
		5A	吉田 春菜			
		5B	加藤 朱莉			
		6A	高山 憂亮			
17	9. 17～19	7B	早崎 有紀	滋賀県看護研修センター	滋賀県看護職員 認知症対応力向上研修	滋賀県看護協会
18	9. 29	5A	木田 彩乃	滋賀県看護研修センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
		4B	三谷 萌			
		6B	平塚 瑠奈			
		7A	大橋 巧登			
		5B	田中 綺乃			
		6A	坂本 なぎさ			
19	10. 1～19	6B	田中 淳子	滋賀県看護研修センター	新人看護職員研修	滋賀県看護協会
20	10. 2	8A	疋田 栞	滋賀県看護協会	看護倫理 ～日々の看護場面における倫理的 ジレンマについて考えてみよう～	滋賀県看護協会

No.	日 付	所 属	氏 名	出 張 先	セ ミ ナ ー 名	主 催 名
21	10. 3	6B	西村 和代	滋賀県看護研修センター	看護実践がみえる看護記録	滋賀県看護協会
		5A	磯崎 繭子			
		7A	村田 志保			
		外来	森 亜希子			
		2A	林 杏奈			
		2A	大山 浩子			
22	10. 6	7A	近藤 ななみ	滋賀県看護研修センター	新人看護職員交流会	滋賀県看護協会
		5B	高橋 穂乃香			
		6A	三井 遥香			
23	10. 8	手術センター	古川 麻起子	滋賀県看護研修センター	中心的立場で活躍するためのリーダーシップ	滋賀県看護協会
24	10. 14～27	感染対策	谷 久弥	Web参加	特別教育セミナー	
25	10. 14～15	外来	坂口 由美子	滋賀県看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	滋賀県看護協会
26	10. 21	外来	山路 久美子	滋賀県看護研修センター	地域包括ケア時代の継続看護Ⅰ～在宅療養を見据えた退院支援～	滋賀県看護協会
27	10. 23	看護部	坂東 恵美子	滋賀県看護協会	「マネジメントラダーに基づく研修」 看護サービスの質保証 ～クオリティマネジメント～	滋賀県看護協会
28	10. 22～24	外来	木下 千恵美	国立京都国際会館 グランドプリンスホテル京都	第58回日本癌治療学会学術集会	日本癌治療学会
		外来	梶田 恵子			
29	10. 25	救急センター	北野 貴司	滋賀県危機管理センター 2F災害対策室5-7	令和2年度滋賀県災害医療 コーディネーター研修	滋賀県
30	10. 26～ 11. 16	看護部	田中 里美	滋賀県看護研修センター	令和2年度新人看護職員研修責任者 研修	滋賀県看護協会
31	11. 4	看護部	上村 千馨子	滋賀県看護研修センター	第24回認定看護管理者（CAN） 認定審査	滋賀県看護協会
32	11. 5	6B	西村 和代	滋賀県看護協会	令和元年度 認定看護管理者教育 課程セカンドレベル 看護管理実践報告会	滋賀県看護協会
		2A	赤井 律子			
		外来	藤田 晶子			
33	11. 6～19	手術センター	水長 真由美	Web参加	第34回日本手術看護学会年次大会 WEB開催	日本手術看護学会
34	11. 11	4B	近藤 真貴子	滋賀県看護協会	看護補助者活用推進にむけての看護 管理者研修	滋賀県看護協会
		5B	中村 春恵			
		5A	中村 千恵子			
35	11. 13	4B	岩崎 彩	滋賀県看護研修センター	3年目看護職員交流会	滋賀県看護協会
		7A	田井中 沙彩			
		6B	佐藤 奈央			
		2A	荒北 結衣			
		2A	中川 亜弓			
		6A	栗田 雅也			
36	11. 18	4B	清水 佑南	滋賀県看護協会	3年目看護職員交流会	滋賀県看護協会
		6B	小堀 隆史			
		5A	若林 舞			
		5B	大谷 悠希			
		6A	小倉 佳那子			
37	11. 26	救急センター	渡辺 奈々	滋賀県看護協会	急変を見逃さないフィジカルアセス メント	滋賀県看護協会
38	12. 2	6B	川島 彩	滋賀県看護研修センター	3年目看護職員交流会	滋賀県看護協会
		6B	杉浦 夢菜			
		7A	西澤 由理香			
39	12. 3～5	8A	北村 月見	サンポートホール高松	第42回日本手術医学会総会	日本手術医学会
		手術センター	佐々木 和輝			
		手術センター	里西 友			
		血液浄化	多湖 ゆかり			
40	12. 9	看護部	上村 千馨子	滋賀県看護協会	「Nursing nowフォーラム」 「看護の日・看護週間制定30周年」 記念特別事業	滋賀県看護協会
41	12. 11	救急センター	北野 貴司	滋賀県看護協会	災害看護フォローアップ研修	滋賀県看護協会

No.	日 付	所 属	氏 名	出 張 先	セ ミ ナ ー 名	主 催 名
42	12. 13	看護部	上村 千馨子	滋賀県看護協会	「臨床倫理とナラティブのススメ」 ～立ち止まり物語る倫理～	滋賀県看護協会
43	1. 16	7B	奥居 絵美	国立京都国際会館	日本病態栄養学会	
44		6A	小菅 智子			
45	1. 25	救急センター	堤 美江	滋賀県看護研修センター	新型コロナウイルス感染症対策研修	滋賀県看護協会
		8A	北村 月見			
		8A	茂森 周美			
46	1. 27	看護部	田中 里美	滋賀県看護研修センター	新人看護職員研修責任者 フォローアップ研修	滋賀県看護協会
		6B	田中 淳子			
47	2. 4	7B	早崎 有紀	滋賀県看護研修センター	滋賀県看護職員認知症対応力向上 研修フォローアップ研修	滋賀県看護協会
48	2. 12～14	2A	杉本 恵美	Web参加	第48回日本集中治療医学会学術集会	香川大学医学部附属 病院 救命救急センター
		2A	柿添 美佳			
49	2. 16～8. 31	通院治療	木下 千恵美	国立研究開発法人 国立がん対策情報センター	2021年度がん相談支援センター 相談員 基礎研修(1) (2) 知識確認コース	国立研究開発法人 国立がん対策情報 センター

17-2. 院内研修

研修種別	日付	研修名	研修講師	参加人数
新採用者 オリエンテーション	4. 1	辞令交付、オリエンテーション、 看護部・各部門の紹介他	職員課	25
	4. 2	認定看護師の紹介、各部署の紹介他	レベルⅠ担当	25
クリニカル ラダー レベルⅠ	4. 3	感染管理、医療安全、SBAR	谷感染管理認定看護師、佐伯科長補佐	14
	4. 6	電子カルテ、看護記録、新人の心構え	渡辺科長補佐、中村千科長補佐、 伊野科長、松宮科長	14
	4. 7	採血、感染管理（針の取り扱い）、 クリニカルパス、看護必要度、DPC	西村科長、飛田裕科長補佐、 中村春科長補佐、小倉科長補佐	14
	4. 8	皮膚排泄ケア、洗浄・消毒・ 滅菌、皮下・筋肉注射	西村科長補佐・皮膚・排泄ケア認定看護師、 北村科長補佐・手術看護認定看護師、 田中淳科長補佐	14
	4. 17	心電図、輸液ポンプ、静脈注射	青野科長、菱田科長補佐	14
	4. 24	夜勤の心構え、 導尿・膀胱留置カテーテル	高田科長補佐、近藤科長補佐、	14
	5. 11	フィジカルアセスメントⅠ、 酸素療法、吸引	高田科長補佐、山崎科長補佐	14
	6. 5	輸血、薬の基礎知識	荻森科長補佐、松本薬剤師	14
	6. 29	3ヶ月フォローアップ研修	レベルⅠ担当者	14
	10～11月	ローテーション研修 （手術センター、救急センター、 2A病棟）	レベルⅠ担当	14
	7. 9	人工呼吸器	青野科長	14
	8. 28	人工呼吸器	西川看護師	14
	10. 2	フィジカルアセスメントⅢ 受け持ち看護師の役割 6ヶ月フォローアップ	山崎科長補佐、レベルⅠ担当	13
	11. 25	終末期看護、認知症看護	森口緩和ケア認定看護師、 藤井認知症看護専門看護師	11
	12. 5	9ヶ月フォローアップ研修	レベルⅠ担当	11
	12. 23	BLS研修	北野看護師	13
	2. 5	災害看護、ポジショニング 11ヶ月フォローアップ	北野看護師、木俣皮膚排泄ケア認定看護師 レベルⅠ担当	12
クリニカル ラダー レベルⅡ	12. 17	退院調整	中居科長補佐	15
	10. 9	リーダーシップ	小菅科長	23
	6. 3	感染経路別予防策	多湖科長・感染管理認定看護師、 谷感染管理認定看護師	16
	7. 17	ケーススタディのまとめ方	中村科長補佐	15
	8. 2	災害看護	北野看護師、秋宗科長、飛田看護師、 岡田看護師	14
	9. 17	フィジカルアセスメント （呼吸・循環）	宮氏看護師、鈴木看護師	14
	10. 22	医療安全	佐伯科長補佐	17
	11. 12	フィジカルアセスメント（統合）	宮氏看護師、鈴木看護師	17
	11. 27	看護倫理	藤井科長補佐・認知症看護認定看護師・ 老人看護専門看護師	24
	1. 19	ケーススタディ発表会	レベルⅡ担当	15
クリニカル ラダー レベルⅢ	9. 14	看護理論	森口緩和ケア認定看護師	12
	9. 23	看護理論	森口緩和ケア認定看護師	8
	10. 13	医療安全	佐伯科長補佐	15
	10. 16	医療安全	佐伯科長補佐	11
	11. 19	継続看護	中居科長補佐	13
	11. 26	継続看護	中居科長補佐	15
	12. 6	災害看護	飛田科長補佐	14
クリニカル ラダー レベルⅣ		研修中止		

クリニカルリーダーレベルⅢ（選択領域）

研修種別	日付	研修名・内容	研修講師	参加人数
実践に役立つ 排尿ケアスキル アップ研修	12. 1	排尿ケア	木俣皮膚排泄認定看護師	16

役割・委員会

研修種別	日付	研修名	研修講師	参加人数
管理者研修	6. 24	新科長研修	谷口部長、上村副部長、橋本副部長	1
	7. 15	新科長補佐研修	谷口部長、上村副部長、橋本副部長	2
		管理者研修	管理者研修担当	中止
		管理者研修	管理者研修担当	中止
教育担当者 研修	2. 12	教育担当者研修	児玉科長補佐、田中科長	8
プリセプター 研修	3. 19	次年度プリセプター研修	高田科長補佐、田中科長	8
臨床指導者 研修	7. 3	伝達講習	前田璃子看護師、木村友哉看護師、 黄地麻衣子看護師	14
看護補助者 研修 MH・クラーク 研修	5. 20～ 6月末	個人情報保護について	上村副部長	71
	6. 19～ 7月末	医療安全	佐伯科長補佐	69
	9月	災害看護	佐伯科長補佐	26
	9. 9、16、23、 24	技術研修『排泄』	木俣皮膚排泄認定看護師	48
	7. 27～ 11. 18	医療安全セミナー	医療安全推進室	49
	10. 14～15	リフレクション研修	看護補助者研修担当	14
	11. 18、19、 25、26	技術研修『移乗』	川島脳卒中理学療法認定士	47
	9. 28～ 10. 18	感染セミナー	感染対策室	41
	1. 6、13、20、 27	認知症看護について	藤井科長補佐・認知症看護認定看護師・ 老人看護専門看護師	66

全体研修

研修種別	日付	研修名・内容	研修講師	参加人数
中心静脈 ポート	11. 6	中心静脈ポートの基礎知識、	木下科長補佐・がん化学療法認定看護師他	18
	12. 2	DVD視聴、演習、口頭試問		21

17-3. 看護部業務委員会活動

I. 各委員会評価

1) 記録推進

【最終評価】

クリティカルパス

クリティカルパスにおける重複記録の低減を目標に、ほぼ全例のパスをアウトカム志向のパスに修正することが出来た。また、重複記録の判断に統一性がなかったため、経時記録に記載しても良い基準を設け、基準以外は重複とみなすこととした。今年度は全体の周知活動には至らなかったため、重複率は算出しなかった。積極的に重複記録の低減に取り組んだ部署は、61%であった重複率を10%以下まで低減することができた。一方、パスチェックを行う中で、バリエーション処理やアウトカム入力が行えていない事例が散見されており、記録を低減させるだけでなく、質を担保するためにもパスを正しく利用できることが今後の課題である。

看護診断・監査

質監査の監査表が完成した。3月までに各部署でプレ監査を行い、最終調整を行う。12月に形式監査を実施した。結果は、昨年度と比較し大きな変化はなく、昨年度の結果を維持できたといえる。とりわけ、「掲示板に記載している個別対応について、看護計画に反映されているか」と「看護計画のOP/TP/EPが追加修正できている」「1週間目と2週間目の評価ができている」の項目では、『よくできている』『できている』の評価が上昇している。委員会を休止していた期間も記録チェックを継続し、記録監視を行ったことが結果に繋がったと考える。

特殊科

救急、手術、透析は監査結果も大きな変化はなかった。外来は、実施する部署と患者を限定してはいるが、看護診断の立案とSOAP記録の件数は増加した。

【残された課題】

クリティカルパス

重複記録の基準を周知し、記録時間の低減を目指す。また、クリティカルパスの質を保つためには、正しいパスの使用方法、特にバリエーション処理とアウトカム入力の徹底が必要である。

看護診断・監査

質監査を実施し、クリニカルラダーと連携した活動で、看護の質向上を目指す。

特殊科

毎年途切れた活動になるため、課題を継承し、解決策を実施し評価することが必要である。

2) 接遇

【最終評価】

目標 1：職員の接遇実践力を上げ、医療接遇の質を高めることができる

〈挨拶運動・他部署巡視〉

今年度は年 4 回の挨拶運動・他部署巡視を実施した。その都度の結果から、個別指導・連帯責任など工夫を凝らした指導方法を行うことで、多くの部署が目標達成に至った。特に巡視では、他部署を巡視することで自部署を振り返ることができ、それを活かした取り組みが評価結果に繋がった。

〈他者評価〉

評価方法を変更したことで、100%の提出率であった。課題は明確であることから、委員も意識的に取り組みを行ってきたが、私語と呼称は低い評価であった。

目標 2：接遇に関する課題を明確にし、改善策を検討し実践することができる

〈事例検討〉

患者意見検討委員会の投書に対し他部署と意見交換を行い、客観的に検討することで、相手の立場に立った見方ができるようになった。投書の検討会は有意義であるとの意見が多かった。

〈マニュアル改訂〉

現行の規定から、マニュアルとはどうあるべきかなど検討を重ね、自分たちで意識(しっかり指導)できるマニュアルの改訂を行った。自分たちの要望が通った結果となったことから、守れていない職員へもしっかり指導を行うことができた。接遇マニュアル改訂後、基準を守れないと元の基準に戻すと周知したことから指導が徹底され、委員会終了後のアンケートでは、すべての委員が自身の接遇に対する意識に変化があり、工夫して取り組むことができたと答えた。

【残された課題】

- ・委員が変更するたびに取り組みが活かされないことから、成果があったことは継続し、残された課題に対しても次年度にしっかり引き継ぐことが重要である。
- ・他部署との意見交換が有効であるとの意見が多かったことから、部署内の課題をディスカッションできる時間を検討する。
- ・他部署巡視、他者評価など、前年度の比較が確実にできるよう評価基準を統一する。
- ・挨拶運動は組織全体での取り組みが効果的である。
- ・活動を通じて自身の接遇に対する意識や行動変容が見られることから、中間評価で意見交換会を行ってみてはどうか。

短時間の評価では他部署の課題が明確にならないことから、活動時間を活用し時間をかけた他部署評価も有効であると考ええる。

3) NST

【最終評価】

①NST リンクナースとしての知識を習得し、かつ実践することができる

9 月に「リハ栄養の取り組みについて」、11 月に歯科衛生士より「口腔ケア、ブラッシング」の勉強会を実施した。9 月から各部署より「NST ニュース」を発行、全部署発行することができた。リンクナース会にて伝達を行い、各リンクナースから部署への伝達、周知を行った。

②NST チームと連携し、各部署の栄養管理を適切に行い、患者に還元することができる

今年度は、6 月と 11 月にそれぞれ栄養再評価率・NST 介入依頼率を集計し比較・分析を行った。全体的に 11 月の栄養再評価率は 6 月より上昇した。しかし、目標の 90%に達していない部署も数部署あった。NST 介入依頼率は 2 部署以外は 100%達成した。

NST 回診への参加においては、2 ヶ月に 1 回は参加としたが、多くの部署が 1~2 回の参加しかできなかった。しかし、3 回以上参加した部署もあった。

NST 加算算定に必要な NST 専任 Ns の増員のために、1 月に 3 名が研修を受講予定であったが、COVID-19 の影響で受講できなかった。来年度、6 月以降に「振替措置」がとられる予定である。

また、毎年開催している「NST 研修会」は、12/4 に予定していたが COVID-19 の影響で開催を断念した。

③口腔ケア方法の標準化を図り、適切なケアを実践することができる

8 月、9 月、10 月と口腔ケアの目的、基本、マニュアルの学習会を実施し各部署への周知を行った。また、NST マニュアルの修正を実施した。

【残された課題】

- ・栄養再評価率、NST 介入依頼率 90%以上をめざす。また、集計方法の検討を行う。
確実に正確な評価・分析を行うためには、やはり毎月集計を実施し比較することが必要ではないか
- ・NST 回診への参加方法の検討
- ・「NST 研修会」の開催
- ・統一した口腔ケア実施に向けて、来年度も引き続き周知していく
- ・NST 専任 Ns 取得（専任 Ns の増員）

4) がん看護

【最終評価】

①STAS-J 記載率 95%以上を目指し、カンファレンスに活用することができる。

委員の声かけのみでは記載率が上がらない部署もあり、掲示板の活用やステーション内でのチラシ掲示など、各部署で見える化を図り目標値に到達した。評価や介入オーダー発行の次にある、カンファレンスでの活用は少数であった。STAS-J 評価がケアの質にリンクしていることの理解を、院内全体に浸透させる必要がある。

②治療ファイルの運用を促進、がん化学療法・症状コントロールマニュアルの作成継続と活用の評価をおこなう

治療前日から当日にかけて、薬剤の投与方法や治療の流れ、副作用の出現時期の項目について積極的に活用され、緊張感を伴う治療において安心材料になった、という評価を得られた。マニュアルの参照率は、がん化学療法が 70%、症状コントロールが 50%と目標達成とはならなかった。マニュアルの内容は 1 年をかけて追加・更新ができたが、活用されないと意味を為さない。臨床での困り事の際、認定看護師をコールする前に、まずは治療ファイルや各マニュアルで確認するという行動がとれるよう、リンクナースの活動に期待したい。

③自己学習ファイルを作成し、知識やスキルの獲得をはかる

COVID-19 感染拡大予防の観点から、主要な学会や研究会、セミナーがオンライン開催となり、院内においても研修が削減された。学ぶ環境は変化した、手段は複数あり、委員会の場で情報提供をおこない自己学習のためのツールとした。グループ単位で学習ファイルを回覧し、メンバーから肯定的なメッセージをもらうことで、モチベーションの維持には繋がったと評価する。各自の学習内容が部署の教育や指導に役立つよう、ティーチングやコーチングスキルの学習も追加できると良いと考える。

④最新の知識やトピックスに関する情報発信をおこなう

毎月の担当者を決め、化学療法・緩和ケアの両方の視点から、バランス良く発信できた。各自が関心を寄せている部分にフォーカスを当て、自分の言葉で伝えるには『理解する』必要があり、そのための学習が自己学習にもつながる形となったことは良かったと言える。しかし、1 回で伝えるには物足りない内容も見られたため、何回かのシリーズ化で読む側の興味をそそる工夫も必要であった。

【残された課題】

- ・マニュアルが臨床の身近な部分で活用されるためのリンクナースの役割
- ・リンクナースが部署内で必要とされ、向上心につながるようにするための支援体制

質が求められ、数値評価が難しい領域ではあるが、各リンクナースの活動が看護の質と経営参画の両面に関与していることを実感できる委員会へと成長させたい。

5) 倫理

【最終評価】

①倫理教育を通じて、自己および所属部署の知識やスキルを向上させることができる

各自 ZOOM での受講や書籍を読み、全員が委員会で伝達講習を行うことができた。

発表した内容や他の委員からの学びを自部署で学習会を開催する委員もいた。

②倫理的視点を交えたカンファレンスを行い、患者の立場に立った看護実践へと結びつけることができる

報告会は毎月担当を決めて開催した。事前にカンファレンス用紙を配布し、グループワークの代わりに各自が意見や感想を記載し、フィードバックした。他部署のカンファレンスの様子を知ること、様々な倫理的問題に気付くことができた。

5月から2月までの患者カンファレンスの件数は666件であった。また、倫理的視点割合は87.1%であった。部署の特殊性もあり、件数には差があるが、カンファレンスを倫理的視点で行うことは定着できてきており、評価は出来る。

③ACPを院内に周知し、患者の意思決定支援を行うことができる

「私の希望」用紙を使用したACPは、部署により差はあるが、2月時点では83件（血液浄化センター配布含む）で、必要な患者を選定し、意思決定支援を行っている。

「ちょこっとACP」は患者の思いを聴いたスタッフが意識して記録に残すことが出来るようになり、2月時点で新規で386件であった。

記載方法が分からない人に委員が直接指導したり、積極的に活動したりしている部署が活動方法を伝えることで刺激になり、各自委員が進んで取り組む様子があった。

ACPについての取り組み報告会を全部署パワーポイントで行い、3月にも行う予定。

委員が積極的に学習会を開催し、指導する様子や部署の特殊性に合わせた活動がされていた。委員を中心としての取り組みによるところが多く、全体が積極的にというまではいかないが、ACPの周知としては評価が出来る。

④倫理やACPに関する知識やトピックスに関する情報共有を行う

全部署が、自部署の取り組みの報告についてのニューズレターを発行できた。

【残された課題】

- ・今年度より、全部署に活動報告書の記載を依頼し、毎月全部署の状況をデータ化した。活動日がない部署には負担になったかもしれない。活動報告書内容の再検討を行う。
- ・グループワークができないことで、ファシリテーターの役割を学ぶ機会は少なかった。検討報告会方法を考慮し自部署のカンファレンスに活かせるようにする必要がある。
- ・ちょこっとACPは浸透しているが、私の希望用紙を用いての戸惑いも視られる。今年度の発表事例を参考にして、次年度に伝える等、委員会の継続した関わりを行う。
- ・ACPを継続して行い、意思決定支援ができるように取り組むを行う。

6) 認知症ケア

【最終評価】

①認知症の基礎知識を習得し、認知症患者の思いや療養への影響を言語化することができる

認知症の基礎知識について研修を計画していたが、COVID-19 感染対策として集合形式の研修は中止とし、資料を配付しその内容に伴う学習課題 4 回計 8 枚をによる自己学習へ変更し行った。課題の内容を超えて自主的に学習を広げるリンクナースもいたが、認知症患者の思いや療養への影響を想像し言語化するには不十分であった。

②急性期病院の認知症ケアの現状や傾向から課題をとらえ、根拠を持って具体的なケア方法をスタッフへはたらきかけることができる

3 回事例提供を行い、各部署で検討を行いその内容について報告を行ってもらった。各部署でカンファレンスを行い、ケアを検討する機会となった。リンクナース自身が認知症の知識と起きている事象を結びつけてアセスメントすることに難しさを感じており、カンファレンスでのファシリテーターとしての役割を果たしたり、スタッフへはたらきかけをしたり、普段の実践につなげることには至らなかったが、事例内容について、解説としてアセスメントやケアの根拠を言語化して示すことで、リンクナース自身のアセスメント力の不足への気づきやスタッフへの働きかけ方のヒントとなったといえる。

③急性期病院の認知症ケアにおける基本的な看護実践をスタッフと共にやり評価することができる

各自部署ごとに課題を抽出しそれに沿った活動について中間・最終評価、成果発表を行うことができた。コアメンバーで担当制をとり特に計画立案時には何度も助言・指導を行ったことで、個人差はあったものの緻密に計画を立案・修正したり、スタッフを巻き込んだりして看護研究に匹敵する取り組みを行うことができた部署もあり、一昨年に比べ内容の充実をはかることができた。成果発表を行うことでお互いにヒントや刺激となったように思う。

④タイムリーなチーム介入につなげ、認知症ケア加算の運用に参画することができる

診療報酬における今年度の数値目標の達成には至らなかったが、昨年度の算定率を大きく上まわり、70%台を維持することができた。リンクナースによる運用システムの説明、毎月の算定もれ数や算定率・減算率の可視化・伝達によって、リンクナース自身がしっかりシステムを理解した上で、自部署での啓発が何度も行われたことで、スタッフへ浸透し効果がみられたといえる。

【残された課題】

他の領域であれば気づきが得られるが認知症ケアでは不足してしまう、気になる事象に接していても熟考することが少ない、その場その場の対応となり実践が積み上がっていかないなど認知症ケアにおける課題としてあげられる。認知症ケアリンクナースの定義や像を明文化しながら、各部署での役割を理解し課題に向き合った活動が行えるよう、また充実感や達成感を感じることができるよう、目標や活動内容、評価指標について緻密に検討していきたい。

部署異動によりリンクナースの交代が複数部署あり、活動内容の継続、モチベーションの維持の難しさから目標に到達できない部署もあった。活動時間の確保には部署間の差もあり、リンクナースのみではなく科長、科長補佐をまきこんだ協力体制を構築していくことが必要といえる。

今年度はコアメンバー間で検討する時間が十分にとれなかったため、検討できる機会を計画的・意図的に設定し充実させていきたい。

7) 医療安全

【最終評価】

今年度は、毎月予定していた医療安全研修を中止し部会運営している。RM の医療安全に対する習熟度は研修時の発言・態度等では計れないが、RM 活動報告では各所属でリーダーシップを発揮し再発予防など医療安全活動を実践している。これも所属長、補佐の助言等も大きいと感じている一方、看護部での医療安全文化の醸成が確立してきた証とも言える。今年度のレポート数は増加傾向にあり、約 2,400 件の報告を受けている。またレベルⅢb の報告数 19 件、Ⅳb1 件であった。

目標 1：リスクカンファレンス実施状況について看護部においては 100%実施できており有害事象発生時は臨時での開催ができています。Ⅲb 以上の事故報告書の提出は 100%+ 対応対策評価も看護部をはじめ他部署とも連携し実施できています。

目標 2：RCA などのリスク分析の教育が充分できていないが、各部署時系列に沿っての振り返りができ、問題点の洗い出し解決策の抽出ができています。教育に関しては課題である。

目標 3：NEWS スコア 50%活用できている結果があるが定着（85%）には届いていない。部署により解離あり。呼吸数に関しては急変（ドクターコールに至った症例）懸念を感じた場合 80%呼吸数の測定に至っているが、日々のバイタルサイン測定には反映されていない。

【残された課題】

看護部リスクマネジメント部会の運営方法再検討（時間、研修方法）。さらに、RM への活動評価。所属での伝達・周知・医療安全に関するリーダーシップを発揮できる課題提供を検討する。次年度からは一昨年まで実施していた RM 研修を再度実施していき部署内での活動に活かしてもらう。

RRS リンク Ns の役割としての目標達成できるための関わりかたの検討が課題である。

8) 感染対策

【最終評価】

リンクナースになる看護師の感染対策に関する知識は様々であるため、少しでもその差が縮まるよう定期的に学習会を実施した。学習会は奇数月に 30 分程度という限られた時間ではあったが、感染対策に携わるメンバーの 1 人として新しく知る、または、振り返りの機会を設けることができたことはよかったと思う。

今年度は、COVID-19 の流行により委員会活動の開始時期が遅れたため、リンクナースとしての部署での取り組み時間が今までに比べると短くなってしまった。そのため、今までであれば、自分自身で部署の問題点を考えて取り組んでもらっていたが、今年度は全員が同じ内容とした。また、取り組みの効果を評価するにはあまり相応しくない状況となってしまった。

リンクナースとしての広報活動として、年 1 回以上のポスター作成等を行うことを課題にしていたが、定期的に作成して部署内に掲示できているところもあれば、そうでないところもあった。

【残された課題】

担当者から課題を提示するばかりでは、やらされているという気持ちが強くなってしまうと考えられるため、リンクナースが問題解決に向けて取り組んでいることをサポートしてく姿勢を大切にしなければならない（取り組みを人一倍頑張っているリンクナースがいたとすれば、その活動内容をメンバーに紹介することによって本人のモチベーションが上がるかもしれないし、何をすればいいのか迷っているリンクナースにとっては光が見えてくるかもしれない）

学習会については、ほぼ毎年同じようなテーマで実施してきたが、次年度も引き続きリンクナースとなるメンバーがある程度いれば、事前に希望を聞きながらテーマを決定していきたい。

9) スキンケア

【最終評価】

目標 1：個別なリスク評価に合わせた予防ケアを提供することにより、院内褥瘡発生を年間 10 件以内とする

・褥瘡発生は 10 件。体位変換やポジショニング後の背抜きの実施で防ぐことができた可能性のあるものは 6 件。前期の褥瘡発生は 7 件で、後期の褥瘡発生は 3 件になった。後期は担当看護師と時間を合わせて個別にポジショニングやケア方法を検討する機会を増やしたことや、使用マットレスとハーティグローブ設置の確認を強化したことが発生件数の減少に繋がったと考える。

目標 2：大用量オムツの日中使用

・計画中止

目標 3：2～3 年計画で院内マニュアルの見直しと近隣病院との統一

・引き続き院内マニュアルの見直しを進めている。

目標 4：院内のスキントラブルで最も多い「スキンテア」に対する知識と予防方法を周知し、発生件数を 80 件以下に減少させる

・今年度の発生は 120 件であり、目標を達成できなかった。中間評価の時点で目標の 80 件を上回っており、マニュアルと患者家族指導用のリーフレットを作成。リンクナースにはスキンテアについての WEB セミナーを受講してもらった。4 月から 9 月までの発生は月平均 11.3 件に対し、10 月から 2 月までの発生は月平均 10.4 件と若干の減少がみられた。

目標 5：フットケアマニュアルに基づいたフットケアをスタッフが実践できる

・リンクナース会開催日を利用して、WOCN とリンクナース中心に OJT でフットケア実施。WOCN にケアを委ねるのではなくリンクナースが主としてケア実践を行う姿がみられるようになった。

目標 6：排泄ケアに関する看護師の意識や知識の向上。排泄自立指導料算定数の増加

・月 2 回の病棟ラウンド、リンクナース会内で各病棟との患者抽出とケア内容検討の実践を継続し、32.1 件/月で目標の 25 件/月を上回っている。病棟看護師自らカテーテル抜去に向けての相談をチームに依頼する、介入依頼のためのチェックリストを作成するなどの意識向上が見られた。尿閉などの排尿障害の患者に対しての看護ケアは適切にでき退院前に解決、または外来に引き継げるようになっており、外来排尿自立指導料も今年度 12 件となり目標を達成した。

【残された課題】

褥瘡・スキントラブルに関して

患者の高齢化、生活自立度 C ランクの増加など褥瘡発生リスクの高い患者に対するケアを煩雑な業務の中で行っている現状がある。個別性のある＋α のケアが必要であるが、ハイリスクラウンドやケア相談時に確認すると、院内マニュアルにある基本的な予防ケアが実践できていないことがあり、基本的なケアの根拠を再認識し、スタッフ全員が実践できるように再教育が必要であると考えます。

しかし、活動時間での教育は時間が限られており、時間外での学習は強制できない。地域包括ケアをすすめるにあたり、退院後の療養環境調整に対し、リンクナースが中心となって活動することが望ましく、科長や科長補佐がサポートをできるようにラダー教育と並行して知識・ケアの質向上に努めることが課題である。

フットケアに関して

来年度は病棟においてリンクナースが主体となってフットケアをスタッフに指導できるように、リンクナースへの再教育と業務内での実践計画と評価を行う。

排尿ケアに関して

病棟から外来への継続介入の評価と見直しを行う。

排尿ケアチームの人数が減る中でも算定数の維持、算定に見合ったケアが提供できるようにスタッフ指導をおこなう。

10) 看護提供方式

【最終評価】

今年度は新たな看護提供方式導入に向けて、ペアリング・ハドルの確立とリーダー育成に取り組んだ。

年度初めは、委員会メンバーも看護提供方式の検討に至る経過や必要性について戸惑いが見られたが、資料の読み合わせや当院における課題を話し合っていく中で、当院が目指す看護のあり方や改革の必要性を理解し、積極的に取り組めるようになった。

ペアリングについては、目標や手順を見直して各病棟をまわって学習会を実施。今まで導入出来ていなかった病棟もあったが、新手順でのペアリングを全館で開始することができた。アンケート結果でも、ペアリングの有効性を感じている声もあり、業務としてのペアリングは定着しつつあると考える。

リーダー育成については、補佐会を利用して学習会を実施。各部署で伝達講習を実施してもらった。同時にリーダーシップについてのアンケートを実施したが、思ったよりリーダーシップについて理解できている意見が多く、リーダーの役割遂行を求めている傾向がうかがえた。ペアリング導入時もリーダーの大切さを伝えており、その効果もあったのではないかと考える。学習会後のアンケートを3月に実施予定であり、今年度の評価と来年度の取り組みに繋げていきたい。

【残された課題】

ペアリング・ハドルは全病棟で取り組みを開始し、業務としては定着しつつあるが、部署により捉え方はさまざまであり、形だけのペアリング・ハドルになっていることも見受けられる。肯定的な意見もあるが負担に感じているスタッフもあり、今後当院（各部署）にあったペアリング・ハドルの方法を検討し、より効果的なペアリング・ハドルに繋げていけるよう取り組みを継続していく必要あり。

リーダー育成についても、スタッフの意識は変わりつつあるが、変革を好まない中堅スタッフも多く、病院全体でのリーダー育成やリーダーの質向上にはまだまだ課題がある。来年度はクリニカルリーダーにもリーダー育成が盛り込まれており、リーダー教育とも連携して、チームをまとめて采配できるリーダー育成に向けて取り組んでいく。

来年度は科長補佐会で看護提供方式については継続予定だが、補佐会の進み具合などを確認しながら、病棟全体がワンチームとして質の高い看護を提供できる体制を目指していきたいと思う。

Ⅱ. 全体総評

今年度は、COVID-19の影響で前半の委員会活動が休止や縮小され、やむなく計画通り進行できない状況にあった。しかし、活動が制限される中でも、質の維持を考えて部署活動でできる内容に変更やオンライン研修の受講を推奨し工夫をしていた。

また、各委員会ともに、課題となっているリンクナースの交替による技量の差異について、成功事例の共有やグループディスカッションなどを取り入れ、リンクナースの育成に力を入れていた。その効果もあり、目標達成に結び付いた委員会も多い印象を受けている。

また、委員会の活動が経営貢献に直結する内容も多く、加算件数の取得がメインとなっていた活動が質の向上に向けた活動にシフトし、その結果から教育との連携を課題と考える委員会が散見される。これらから、目標達成に主眼を置くだけでなく、人材育成や組織管理に繋がる委員会の自律的な活動が伺える。

そして、今年度は昨年度の課題から、「看護提供方式」を委員会として立上げて活動を行ってきた。当初は、「固定チームナーシング」の移行を考慮していたが、勤務条件等の関係からチーム編成の構築が難しく、固定チームナーシングの移行を断念せざるを得なかった。しかし、昨年度より推進してきたペアリングやハドルは浸透し、さらに活動の目的の再周知やリーダーシップ研修を丁寧に実践したことで、更なる理解と実践に繋がったと評価している。その結果、時間外業務の削減、時間内での記録時間の確保に繋がったと考える。今年度は、病床制限によって、業務の煩雑さが際立ち、さらに働きかた改革の推進もあって、効率性も意識した看護の実践であった。看護提供方式の形式的な取り組みはできたが、業務の負担軽減にまでは至っておらず、職員満足への反映もされていない。

【次年度に向けて】

看護部組織として看護提供の仕組みを整え、各委員会の主体的な活動を支援する。そのひとつに、看護提供方式の手順の標準化に努める。その実践に看護科長補佐が主体的に活動できるように、看護科長補佐会に移管しその実践の支援にあたる。また、看護実践の質を医療安全や満足度調査等から評価していきたいと考える。

業務担当：上村千馨子

17-4. 教育委員会評価

1. 研修について

1) クリニカルラダー教育の説明

令和2年度の教育計画の説明は、4月の科長ミーティングで実施したが、特に問題なかった。

2) 研修内容の改善および研修環境について

今年度はCOVID-19の影響により9月頃までは、研修を中止にしたり、延期したりとなるケースが多く見られた。10月頃より密集、密閉、密接を避け、感染対策を講じることで、研修を開始することができた。

2. 合同教育委員会について

1) 令和2年度 教育評価

① クリニカルラダーレベルⅠ

COVID-19の影響下で、3密を避け、感染対策(換気・検温・標準予防策)を行うことで、レベルⅠに関しては、ほぼ予定通り研修を行うことができた。しかし、体を密にして実習するような研修(BLS研修、ポジショニングの研修)は時期を半年遅らせて実施した。ローテーション研修を6月頃に行っていたが、新人の独り立ちが不十分の時期に部署を離れて他部署での研修を行うより、独り立ち後に研修を行った方が有意義ではないかと考え、10月～11月へ変更して実施した。自部署にも慣れ少し余裕も出てきているためか、ローテーション研修では、急変時に活かせる内容ができたことが新人看護師の自信にもつながったように感じた。

多重業務が苦手な看護師が多くいることから、今年度より、多重業務の研修を取り入れた。日頃起こりやすい場面をデモンストレーションすることで、優先順位の決定などグループワークで意見交換ができた。

新人2名が、精神的につらくなり病欠が続いた。1名は年度末に退職、1名はレベルⅠ保留となった。3月中旬よりリハビリ出勤をして、経過観察中である。

② クリニカルラダーレベルⅡ

COVID-19の影響で、退院支援とリーダーシップの研修の時期を後半へ移動したが、そのほかの研修は予定通り行った。フィジカルアセスメントの研修は、密になりやすいため、1日2回の開催とした。今年度もケーススタディの発表を1日にしたが特に問題はなかった。

③ クリニカルラダーレベルⅢ

COVID-19の影響で、9月までの研修をすべて中止した。研修回数が大幅に少なくなったため、今年度レベルⅢの認定審査を行える予定者が17名と少なくなってしまった。しかし、内8名が認定審査を申請しており、申請率は47%となった。

④ クリニカルラダーレベルⅣ

COVID-19の影響で、研修が中止となった。

⑤ クリニカルラダーレベルⅢ選択領域

2研修を開催予定であったが、COVID-19の影響で、中止となった。後半に皮膚排泄ケアの実践報告のみ研修を行った。参加者はリンクナースであったため日頃の活動の振り返りができた。

⑥ 役割・委員会研修

COVID-19の影響で、開催の方法が変更となった研修が多かった。管理者研修は今年度も中止となった。他の委員会は、3密を避けて委員会活動が行えた。

2) 次年度に向けての課題

① クリニカルラダーレベルⅠ

今年度は特に、メンタルの変調をきたすものが目立った。次年度からは、メンタルヘルスについての知識が必要であり、リエゾンナースの活用など、独りで悩まずヘルプを出せるところがあることを伝えることも必要ではないかと考えている。また、部署全体で新人を育てていく風潮を大切にしていきたいと考える。エルダー制を導入して今後の新人指導にどのように変化があるか評価していきたい。

② クリニカルラダーレベルⅡ

次年度より、研修内容を見直し、看護実践に活用できる内容としている。研修の評価を行い、意図する研修に近づけるよう内容の見直しを行っていきたい。

③ クリニカルラダーレベルⅢ

今年度、クリニカルラダーの見直しを行い、看護実践能力に特化した内容に変更をした。レベルⅠ～Ⅴまで、レベルに合った研修内容を計画し、今後評価を重ねていき、さらに充実した研修内容へレベルアップしていきたいと考えている。研修項目が増えたことで、次年度のレベルⅢ認定審査の申請は難しいと考える。しかし、看護実践に役立つ研修を取り入れたことで、レベルⅢの看護の質の向上につながることを期待している。

昨年に認定審査の要件を、看護実践レポート3事例とあったところを1事例に変更し、「委員会活動や教育活動においてどのようにマネジメントを行い、組織貢献できたか」についてのレポート1例を追加した。今年度は申請者が8名いたことは、申請の負担がやわらいだことが大きな要因の一つではないかと考える。

④ ラダーの再構築について

次年度より、クリニカルラダーの見直しを行うなかで、選択領域を廃止し、皮膚排泄、認知症の研修も必須とした。新たに、コミュニケーション、チームでの協働、フィジカルアセスメント、看護過程の項目を設けた。看護実践能力の4つの力「ニーズをとらえる力」「ケアする力」「協働する力」「意思決定を支える力」を養うための研修項目を12項目選択した。

⑤ クリニカルラダーの評価について

今までの評価は、レベルの申請時のみに行ってきたが、次年度より毎年評価を行う体制とした。9月と2月の目標管理シートを提出する際に、教育に対する評価も行い、所属長に他者評価を依頼するようにした。

3) 会議回数の削減、時間短縮、参加メンバーについて

COVID-19の影響で、前半の研修が中止となったため、会議も中止した。後半から会議を開催した。会議回数は5回となったが、会議の内容が、研修の報告が主であったため今年度は会議回数が少なくても影響はなかった。しかし、もう少し有意義のある会議にしていく必要があると思われる。(図1) 後半は次年度の研修の打ち

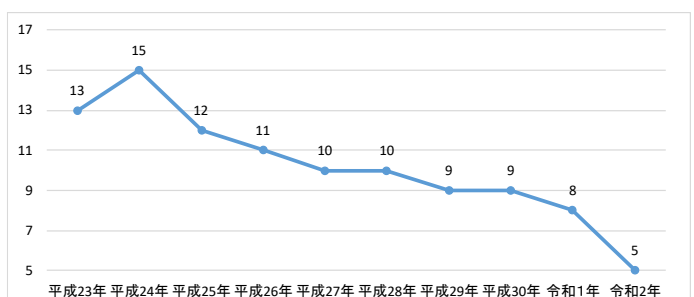


図1 合同教育委員会 会議回数

合わせ調整に費やすが、合同教育委員会の会議の持ち方について検討する必要があると感じた。

4) 『教育委員会便り』発行

今年度は研修が少なかったため『教育委員会便り』を発行することができなかった。

5) HPについて

今年度は研修の様子を掲載することができなかった。

6) 保健所立ち入り調査

COVID-19の影響により中止となった。

3. クリニカルラダー認定審査会について

1) レベル毎のデータ整理

昨年と同様に、データベースの作成を実施した。入力に時間を要するが、特に問題はなかった。

2) 中途採用者ラダーレベル認定

今年度より、会計年度任用職員としての採用のみで、正規職員としての採用はなかった。今後も正規職員としての採用はないと思われる。

3) クリニカルラダーの見直し

日本看護協会の開発しているクリニカルラダーを活用し、看護実践能力に力を入れたクリニカルラダーの再構築を行った。看護実践能力に必要な4つの力毎に研修を計画し、看護の質が向上できるような研修へと変更していった。教育に関する評価を毎年行うことで、自己の看護の振り返りができると共に更なるレベルアップを目指していける教育体制になってほしいと考えている。

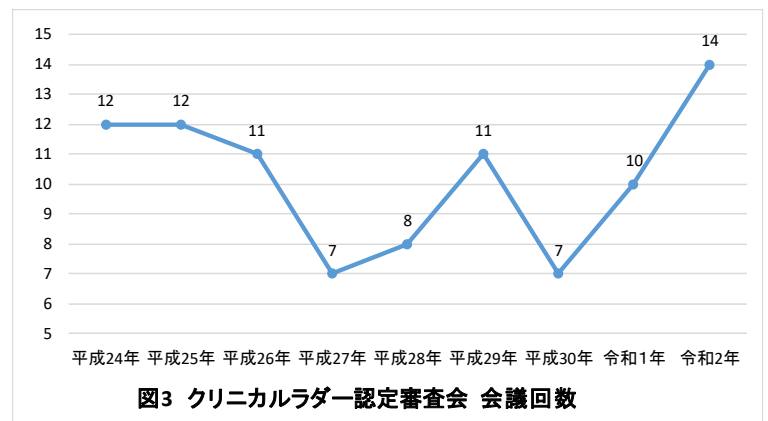
4) 会議の回数、削減

今年度はクリニカルラダー構築に向けて毎月会議を開催した。定期の会議だけでは、進めていけなかった部分は臨時の委員会を設けた。回数は増加したが、クリニカルラダー構築に向けて必要な会議であったと考える。(図3)

また、今年度は、クリニカルラダーの構築へ向けた会議が中心で、本来の認定審査委員会は、4、5、3月のみ行った。中途採用者がいなかったことも一因である。そのため、メンバー構成に認定審査委員長である看護部長の出席がほとんどなかった。次年度からは、認定審査

を行う際のみに看護部長の参加をすることに変更する。

再三の参加要請、部長からの進言等があっても委員会に参加しない者がいた。

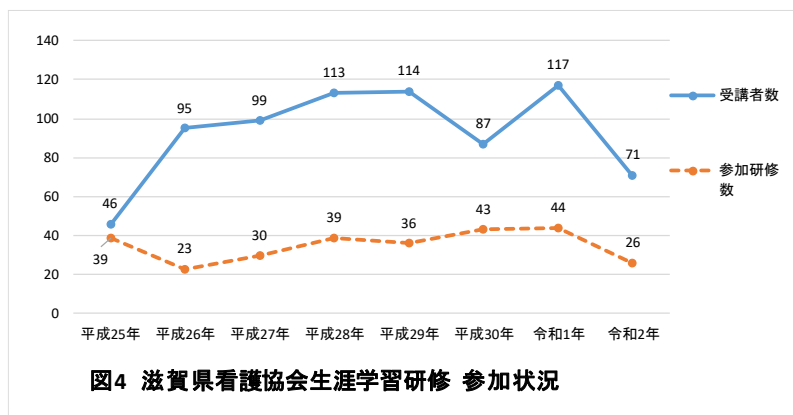


4. 滋賀県看護協会 生涯学習研修について

1) 受講状況

令和2年度の延べ研修参加者は、71名（26研修）であった。今年度は、COVID-19の影響で前半の研修が中止または延期となり、参加できる研修の数も減少した。参加者としては、昨年度より減少はしているが、前々年度以前と比較すると、研修数がほぼ半減しているにも関わらず、研修の参加人数は71名にとどまっている。（図4）コロナ禍ではあったが、研修に参加希望者が多くいた。

当院で滋賀県看護協会に入会している看護師数は、昨年度が232名、今年度は247名と増加傾向にある。参加への声掛けを行ったことも効果があったのではないかと考えるが、昨年は、理由なく退会者が数名いたが、今年度は理由のない退会者がいなかったことも看護協会入会者数が増加した要因だと思う。3月末で、259名の入会者数で、全体の67.4%となった。



教育担当：橋本宏美

17-5. 実習受け入れ状況

※1回の実習につき学生数を分散し3人程度に抑えた。日数変更あり。

糖尿病資質向上研修（滋賀県健康福祉部医務薬務課）

実習科目	職種	人数	実習期間	実習病棟
臨床実習	看護師			実習なし

滋賀県立大学人間看護学部

実習科目	学年	学生数	実習期間	実習病棟
基礎看護学実習Ⅰ				実習なし
基礎看護学実習Ⅱ				実習なし
成人クリティカルケア実習	3	9	R2 9.23	2A病棟、手術センター
		9	R2 10.5	2A病棟、手術センター
		9	R2 10.19	2A病棟、手術センター
		4	R3 2.80 ～ 2.17	5A、6B、2A病棟、手術センター
成人クロニックケア実習	3			6A、7A病棟 学内へ
		18	R3 1.5 ～ 1.15	5B、6A、7A病棟
		12	R3 2.20 ～ 2.9	6A、7A病棟
エンドオブライフケア実習	3	6	R2 10.6 ～ 10.9	8B病棟
		8	R2 11.4 ～ 11.11	8B病棟
		8	R3 1.19 ～ 1.27	8B病棟
		8	R3 2.16 ～ 2.24	8B病棟
統合実習				実習なし
				実習なし

聖泉大学看護学部看護学科

実習科目	学年	学生数	実習期間	実習病棟
基礎看護学実習Ⅰ	1	15	R2 9.8 ～ 9.11	4B、5B、6A、6B、病棟
		15	R2 9.15 ～ 9.17	4B、5B、6A、6B、病棟
基礎看護学実習Ⅱ	2	24	R3 2.15 ～ 3.4	5B、6A、7A、7B、病棟
成人看護学実習（急性期）	3	5	R2 11.9 ～ 11.19	5A、6B、病棟
		11	R2 12.7 ～ 12.17	5A、6B、病棟
		10	R3 1.12 ～ 1.21	5A、6B、病棟
成人看護学実習（慢性期）	3	21	R2 10.8 ～ 10.21	5B、6A、7A、7B、病棟
		20	R2 11.5 ～ 11.18	5B、6A、7A、7B、病棟
		10	R2 12.3 ～ 12.16	5B、7A病棟
		5	R3 1.28 ～ 2.10	7B病棟
小児看護学実習	3	4	R2 10.14 ～ 10.21	4B病棟
		5	R2 11.11 ～ 11.18	4B病棟
		5	R2 11.25 ～ 12.2	4B病棟
		5	R2 12.9 ～ 12.16	4B病棟
地域統合実習				実習なし
				実習なし

滋賀県立看護専門学校

実習科目	学年	学生数	実習期間	実習病棟
小児看護学実習	3			実習なし
				実習なし
				実習なし
				実習なし
		6	R2 10.1 ～ 10.6	4B病棟
		5	R2 11.2 ～ 11.6	4B病棟

中学校・高校生職場体験学習 COVID-19の影響で、すべて中止

学 校	学年	学生数	実習期間	実習病棟
-----	----	-----	------	------

リスタートナースサポート研修

	学年	人数	実習期間	実習病棟
滋賀県ナースセンター		2	R2 10.12 ～ 10.13	救急センター、4B、5A、病棟

17-6. 認定看護師活動

がん化学療法看護認定看護師 木下千恵美・梶田恵子

1. 院内活動

内容	対象者	日時	担当
がん薬物療法と看護	7B 病棟看護師	4. 20	梶田
がん薬物療法看護～基礎から学ぼう～	4B 病棟看護師	5. 20	木下
中心静脈ポートの管理について	外来看護師	5. 25 5. 27	木下
がん薬物療法看護	6A 病棟看護師	6. 9	梶田
中心静脈ポート	訪問看護師	7. 6	梶田
がん薬物療法看護～肺がん～	6B 病棟看護師	8. 7	木下
がん薬物療法看護～投与管理を中心に～	5B 病棟看護師	8. 14	木下
外来がん看護	外来看護師	9. 30 10. 5	木下
がん免疫療法 有害事象マネジメント	訪問看護師	10. 28	木下
中心静脈ポート研修	クリニカルラダーレベルⅡ以上	11. 16	木下/梶田
外来がん患者継続看護	外来看護師	11. 17	梶田
中心静脈ポート研修	クリニカルラダーレベルⅡ以上	12. 2	木下/梶田
アドバンスケアプランニング ～もしばなゲームで学ぼう～	外来看護師	2. 17 3. 2	木下

2. 院外 講演

演題・テーマ	セミナー名	会場	日時	講義担当
通院治療センターの取り組み	湖東医療圏がん薬物療法 病薬連携セミナー	くすのき センター	7. 30	木下
通院治療センターの取り組み	彦根市立病院 地域医療連携委員会	くすのき センター	11. 19	木下

3. 院外 学会・研究会・研修参加

学会名・研究会名・研修名	会場	日時	参加者
湖東医療圏がん薬物療法 病薬連携セミナー	くすのきセンター	7. 30	木下/梶田
第 58 回日本癌治療学会学術集会	国立京都国際会議場	10. 22～24	木下/梶田
第 35 回日本がん看護学会学術集会	WEB 開催	2. 27	木下/梶田
2021 年度がん相談支援センター 相談員基礎研修 (1) (2) 知識確認コース	オンデマンド研修	3. 30 修了	木下

4. ころとからだの放送室（エフエムひこねコミュニティ放送）

テーマ	日時	担当
がん薬物療法はどんな治療？	7. 27	木下
がん薬物療法の副作用について	7. 28	木下
がん薬物療法における看護師の役割	7. 29	木下
がん薬物療法のチーム医療について	8. 3	梶田
アピアランス支援について	8. 4	梶田
通院治療センターはどんなところ？	8. 5	梶田
転移再発乳がん薬物療法中の付き合い方	11. 17	梶田

5. その他

滋賀県がん診療連携拠点協議会 研修推進部会所属：年 3 回の部会 WEB 会議（木下参加）

6. 所感

がん化学療法看護認定看護師 2 名は、外来通院治療センターの専従として勤務している。当院は湖東医療圏のがん診療連携拠点病院であり、地域の中で果たす『がん診療』の役割は大きく、地域医療の発展に向けて尽力を尽くすべき立場となっている。

今年度は COVID-19 流行に伴い院内では病棟編成が行われた。これまでがん薬物療法を行っていない部署でがん患者を受け入れる必要性が出てきたため、がん看護の質を確保するために各病棟で学習会を開催し、看護師のサポートを行った。

近年、がん薬物療法の開発は進み治療にはめざましい進歩がある。殺細胞性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など治療内容は多岐に渡っている。新規薬剤の作用機序・投与方法・有害事象及び症状に対する支持療法など、日々新しい情報を得ながら最先端の治療が提供できるように取り組んでいる。がん薬物療法は医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー等、多職種での連携は必須である。当院で治療を受ける患者は年々増加の傾向があるため、患者主体の治療が行えるようチームとして取り組み、研鑽している毎日である。

一人一人の患者の意思を大切に、真心のこもったがん薬物療法看護が提供できるよう、今後も誠心誠意、取り組んでいく所存である。

【学術活動】

誌上発表

1. 著書

①多湖ゆかり：INFECTION CONTROL 4

プランナー：新人研修 成功のための戦略 Tips9

執筆：中規模病院、自治体病院での新入職者研修 Tips3

令和2年4月1日発行 株式会社メディカ出版

②多湖ゆかり：iPacLetter volume30 ICT/AST レポート

発行 杏林製薬株式会社

③谷久弥：広報誌 ナースレーク 149号

一番星見つけた！ 第5地区支部の地域での新型コロナウイルス感染症への取り組み

令和3年1月12日発行 公益社団法人滋賀県看護協会

④多湖ゆかり：INFECTION CONTROL 2021年春季増刊

執筆：あなたの「知りたかった！」に答えます！新型コロナウイルス対策 Q&A 68

令和3年2月5日発行 株式会社メディカ出版

2. 学会 演題発表

※該当なし

3. 講演

日付	講演会名	講演内容	場所	講演者
8.20	訪問看護の現場における新型コロナウイルス感染症対策の研修会	「新型コロナウイルス感染症との向き合い方 第2波到来に備え訪問看護の現場でできること！」	彦根くすのきセンター（滋賀）	谷
8.21	新型コロナウイルス感染症対策研修会	「新型コロナウイルス感染予防策について」	彦根くすのきセンター（滋賀）	谷
9.1	2020年度 リスタートナースサポート研修会	「感染管理」	彦根くすのきセンター（滋賀）	谷
10.6	令和2年度「高齢者介護施設におけるゾーニング指導研修会」	①新型コロナウイルスの感染対策 ②正しい個人防護具の着脱実技 ③ゾーニングとは ④実際の施設を使つてのゾーニング指導	介護老人保健施設アロフェンテ彦根（滋賀）	谷
10.12	彦根市立病院リスタートナースサポート研修	「感染管理（手洗い、PPE、消毒）」	本院3-2会議室（滋賀）	谷
12.10	新型コロナウイルス感染症にかかる在宅生活困難障害者等支援事業対応スタッフのための感染対策研修会	「新型コロナウイルス感染症の基礎知識と対策（防護具の着脱）」	彦根市障害者福祉センター（滋賀）	谷

4. 学会活動

日本環境感染学会 評議員 多湖ゆかり

日本環境感染学会 災害時感染制御支援チーム DICT-RM 登録

日本環境感染学会 論文査読

5. 学会座長・司会等

※該当なし

【院外諸活動】

1. 院外研修および学会参加

日付	学会・研修名	内容	場所	参加者
9. 24	日本感染管理ベストプラクティス” Saizen “研究会 感染管理ベストプラクティス ワークショップ 「新型コロナウイルス感染症対策」	第二部 「モノを準備して終わりではない、効果的に活用するためのポイントを考えよう」	Web 開催	多湖
10. 7～ 21	SARAYA 感染対策セミナー【Web 版】	・「COVID-19 診療の現場から」 ・「COVID-19:感染予防～ICN の立場から～」 ・「冬場に注意すべき感染症のみかた」 ・ディスカッション	Web 開催	谷
10. 14 ～27	ICNJ PRESENTS 現場で頑張る ICN を応援!!キャンペーン 特別教育セミナー	・これからの新型コロナウイルス感染症～これまでの知見をもとにした、今冬に向けた動向や課題について～ ・新型コロナウイルス感染症の感染予防、管理について ・クラスター対策班での活動 - ICNJ としての活動の実際と介入事例について ・COVID-19 第1波の受け入れを振り返って～クルーズ船での患者受入準備から～ ・施設でのクラスター発生から終息までの対応～就業制限の職員を対象とした復職支援・教育について～	オンデマンド 配信	多湖 谷
10. 28	新型コロナウイルス感染症対応に係る情報共有会議 (感染管理認定看護師対象)	・今後の院内感染を予防するための各施設の取り組み状況 ・各施設での陽性患者やクラスター発生時の対応と準備 ・各保険医療圏域内の感染管理状況 ・職員への指導方法や研修会の取り組み など	滋賀県看護協会 2階 研修室1 (滋賀)	谷
11. 8	Ethicon Care+ Healthy Discussion Seminar	「SSI 予防における国内外の Key opinion leader の英知を集結し、日本の医療に貢献する」 モデレーター:竹末芳生先生、森兼啓太先生	Live 配信 (ZOOM)	多湖
11. 13	感染症インターネット講演会	・「グラム陰性桿菌に関する薬剤感受性 Up to date」 中村竜也先生 ・「耐性菌時代を乗り切る、新しい抗菌薬適正使用の考え方」 浦上宗治先生	Live 配信 (滋賀)	神田 福田 多湖 谷
11. 14	手術室・感染対策オンライン セミナー	・手術室における SARS-CoV-2 対策 ・Surgical Stewardship による SSI 対策 ・SARS-CoV-2 以外のトピックス 土井英史先生	Live 配信 (ZOOM)	多湖
12. 2	令和2年度 院内感染防止対策 研修会	・「クラスターの予防と対応の考え方」 鈴木智之先生 ・「新型コロナウイルス感染症の現状と今後の備えについて」 大江秀典先生 司会・進行 金子隆昭先生	オンライン Web 研修会 (ZOOM)	山田
12. 4～5	日本手術医学会総会	飛翔への融和	サンポートホール高松 (香川)	多湖

1. 19	ナースの星 感染対策 WEB セミナー	「海外に学ぶ CLABSI（中心静脈カテーテル関連血流感染）の低減に関する動向と対策」 森兼 啓太先生	Web 配信	多湖
1. 29	ナースの星 感染対策 WEB セミナー	「コロナ禍における手指衛生と手荒れ対策」 基調講演「COVID-19 最新情報と手荒れ対策の意義」 森兼 啓太先生	Web 配信	多湖

2. 研究会会議・研修支援・アドバイザー・アウトブレイク調査等

日付	研究会・研修会名	場所	参加者	参加形態
8. 29	2019 年度 第 4 回 日本感染管理ネットワーク近畿支部世話人会議	Web 会議 (ZOOM)	谷	会議
8. 29	2020 年度 第 1 回 日本感染管理ネットワーク近畿支部世話人会議	Web 会議 (ZOOM)	谷	会議
10. 31	2020 年度 第 2 回 日本感染管理ネットワーク近畿支部世話人会議	Web 会議 (ZOOM)	谷	会議
11. 25	新型コロナウイルス感染症アウトブレイクの現地調査と指導	豊郷病院 (滋賀)	多湖、滋賀県及び彦根保健所の職員	調査及び指導
2. 27	一般社団法人日本環境感染学会評議員会	東京ドームホテル地下 1 階オーロラ (東京)	多湖	Web 会議にて参加 (15:00～16:00)
3. 20	2020 年度 第 3 回 日本感染管理ネットワーク近畿支部世話人会議	Web 会議 (ZOOM)	谷	会議

【院内諸活動】

1. 研修講師

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
4. 1	令和 2 年度新規採用職員研修	感染対策室の紹介	令和 2 年度新規採用職員	谷
4. 3	令和 2 年度クリニカルラダー I 新人看護師技術研修 「感染管理」	院内感染防止技術	クリニカルラダーレベル I 新人 16 名、経験者 10 名、研修医 5 名	多湖 谷
4. 7	令和 2 年度クリニカルラダー I 新人看護師技術研修 「感染管理」	針の取り扱い	クリニカルラダーレベル I 新人 14 名、研修医 3 名	谷
4. 17	令和 2 年度クリニカルラダー II 「感染管理」	針の取り扱い	クリニカルラダーレベル II 15 名	谷
6. 30	令和 2 年度クリニカルラダー II 「感染管理」	感染経路別予防策 (飛沫・空気・接触) 講義と演習	クリニカルラダーレベル II 17 名	多湖 谷
7. 8	院内感染対策リンクナース会 学習会	・標準予防策 ・当院での COVID-19 診療状況	リンクナース 14 名	多湖 谷
7. 21	血液浄化センター学習会 感染管理	感染経路別予防策 COVID-19 について	血液浄化センター ナース	多湖
9. 9	院内感染対策リンクナース会 学習会	職業感染予防策 - 医療従事者のワクチン接種 -	リンクナース 14 名	谷
11. 11	院内感染対策リンクナース会 学習会	インフルエンザ・ノロウイルス対策について	リンクナース 14 名	谷

1. 13	院内感染対策リンクナース会 学習会	培養検査の取扱い	リンクナース 14 名	検査科 福田
3. 10	院内感染対策リンクナース会	活動報告会	リンクナース 14 名	多湖 谷
2020 年度 (通年)	個人防護具の使用方法について (新型コロナウイルス感染症 対策として)	着脱訓練およびDVD 視聴 ※計 77 回の実施	当院職員 (委託業者含む)	多湖 谷

2. 研修

日付	研修会名	内容(テーマ)	対象者	講義者
9. 28～10. 25	医療安全・院内感染対策合同 セミナー DVD 回覧	「彦根市立病院 COVID-19 対応」	全職員	
11. 2～12. 25	2020 年度 第 1 回抗菌薬適正 使用支援セミナー DVD 回覧	「薬剤耐性 (AMR) について」	医師、看護師、薬剤師、 臨床検査技師	
3. 30～4. 30	2020 年度 第 2 回院内感染対 策・抗菌薬適正使用支援研修 資料閲覧	「新型コロナウイルス 感染症についての Q&A」	全職員	

3. 感染管理に関するコンサルテーション集計

■多湖ゆかり

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4 月	12	4	6	2	24
5 月	9	0	2	4	15
6 月	5	0	0	2	7
7 月	6	0	0	0	6
8 月	5	1	1	0	7
9 月	1	1	0	0	2
10 月	8	1	0	1	10
11 月	3	0	1	1	5
12 月	1	0	1	3	5
1 月	5	0	1	2	8
2 月	6	0	2	0	8
3 月	6	0	0	0	6

■谷久弥

	院内			院外	合計
	看護師	医師	その他		
4 月	15	3	4	3	25
5 月	16	2	3	0	21
6 月	7	4	1	5	17
7 月	7	1	1	2	11
8 月	7	2	2	7	18
9 月	6	1	0	3	10
10 月	7	2	0	0	9
11 月	8	1	5	3	17
12 月	10	1	4	4	19
1 月	11	2	5	1	19
2 月	6	1	3	1	11
3 月	13	2	5	0	20

1. がん看護委員会活動

令和2年5月～令和3年3月まで 第4月曜日 15時～16時

- 1) STAS-J 介入率、評価率共に目標値である 95%を超えることができた
- 2) 2つのワーキンググループに分かれ、治療ファイルの運用促進とがん化学療法マニュアルの作成、緩和ケアマニュアルの作成を進めた

2. 院外研修、学会、講義、会議

1) 緩和ケア関連

研修、学会、講義、会議	会場	参加形態	開催日
地域統合実習 特別講師	聖泉大学	講師	7. 28
第 25 回日本緩和医療学会学術大会	Web 参加	一般参加	8. 9～10
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	9. 9
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	11. 17
リスタートナースサポート研修	滋賀県看護協会	講師	1. 19
滋賀県がん医療フォーラム	YouTube 配信	講師	2. 1～28
都道府県指導者養成研修 (緩和ケアチーム研修企画) フォローアップ研修	国立がん研究センター	受講者	3. 20

2) メンタルヘルスケア関連

研修、講義等	会場	参加形態	開催日
医療従事者に対するメンタルヘルスケア	京都新聞	インタビュー	8. 5 掲載
新型コロナウイルス感染症妊産婦ケア研修会	大津合同庁舎	講師	9. 8
新型コロナウイルスによる、病院・患者・家族の現状と医療従事者のメンタルヘルスケア	滋賀県立大学 (ZOOM 利用)	講師	10. 26
新型コロナウイルスに対するメンタルヘルスケア (院内外での取り組み) について	ZOOM 利用	医療情報専門 サイト m3. com の取材	3. 26 配信 開始

3. その他

内容	相談者	件数
患者・家族に関する指導、相談 (病棟内)	看護師	203 件
〃 (病棟外)	看護師	36 件
症状コントロールに関する相談 (院内全体)	医師	18 件
緩和ケア病棟入院予定者への面談	患者・家族	162 件
	医師	37 件
緩和ケア病棟転棟に関する相談 (院内全体)	看護師	25 件

<所感>

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、院内の委員会活動の始動が遅くなり、リンクナースにとっては物足りない1年になったのではないかと懸念がある。しかし、自己学習ファイルを用いて各自の意識を高め、ファイルの供覧や発表を通じてお互いの努力を承認する、というこれまでにない方法で工夫することができた。主要な学会や研究会、セミナー等が次々に中止され、自己研鑽の機会が激減してしまったが、院内学習会など他者へ向けての積極的な取り組みをしてもよかったのではないかと反省する。研修や学会の在り様も変化を求められ、過去の経験や方法では通用しないことも増えたが、そのぶん代議員会や支部会のオンライン会議で、他院の医師・看護師・薬剤師らと建設的な意見交換や、情報交換ができたことは有益だった。

また今年度は、新型コロナウイルスに伴うメンタルヘルスケアのニーズに応えるべく、県内の医療従事者と連携し、滋賀県メンタルヘルスケアチームの構築に寄与することができた。今後も緩和ケアの実践で得たスキルだけでなく、かけがえのない財産と言える大切な仲間の力も借りながら、今必要とされるケアにアプローチしていきたいと思う。

緩和ケア認定看護師 森口 朋子

1. 院内活動

日時	内容	対象者
5.10	COVID-19 休日本部当番	COVID-19 疑い患者
7.15	7A・7B 病棟 ACP 学習会 講師	7A・7B 看護師
7.24	COVID-19 休日本部当番	COVID-19 疑い患者
8.1	COVID-19 休日本部当番	COVID-19 疑い患者
8.23	COVID-19 休日本部当番	COVID-19 疑い患者
8.28	看護部倫理委員会 ACP 学習会講師	看護部倫理委員会役員
9.14	看護部ラダーⅢ 看護理論 講師	ラダーⅢ看護師
9.23	看護部ラダーⅢ 看護理論 講師	ラダーⅢ看護師
10.19	がん患者サロンりらく話し合い	がん患者サポーター
10.22	外来 ACP 学習会 講師	外来看護師
10.23	看護部倫理委員会 ACP 学習会講師	看護部倫理委員会役員
11.5	がん教育話し合い	教育委員会
11.10	ハローワーク話し合い	ハローワーク
11.11	かがやき通信 倫理委員会 ACP 原稿	彦根市民
11.24	がん患者サロンりらく開催	がん患者
11.25	新人看護師研修「終末期看護」講師	新人看護師
12.22	がん患者サロンりらく開催	がん患者
1.10	COVID-19 休日本部当番	COVID-19 疑い患者
1.18	新人看護師研修「終末期看護」講師	新人看護師
3.15	ハローワーク話し合い	ハローワーク
3.17	COVID-19 ワクチン接種手伝い	院内職員
3.22	看護協会第5地区ケアフォーラム視聴会開催	院内看護師

2. 院外活動

日時	内容	参加形態	会場
6.27	滋賀県看護協会第5地区役員会	役員 副支部長	多賀町総合福祉 保健センター
7.30	がん薬物療法病薬連携 センター	一般参加	彦根市立病院 ZOOM
8.6	滋賀県看護協会第5地区役員会	役員 副支部長	くすのきセンター
9.26	ACP 研修	一般参加	くすのきセンター ZOOM
10.14	滋賀県看護協会第5地区役員会	役員 副支部長	くすのきセンター
10.24	リレーフォーライフ	院内ビデオ作成 がん相談員協働	滋賀医大 ユーチューブ
11.10	滋賀県看護協会第5地区役員会	役員 副支部長	くすのきセンター
11.10	第9回北琵琶湖メディカル スタッフカンファレンス チームで取り組む乳がんの化学療法	一般参加	彦根市立病院 ZOOM

11. 19	愛知医科大学看護学部成人看護学部 講師と「緩和ケアを腫瘍学の実践に 統合する教育モデル構築への課題 検討」	ディスカッション	彦根市立病院 ZOOM
11. 22	厚生労働省主催意思決定支援研修会	チーム参加	彦根市立病院 ZOOM
12. 17	滋賀県看護協会第 5 地区 診療所等で働く看護師の集い研修会、 役員会	役員 副支部長	くすのきセンター
1. 27	滋賀県看護協会第 5 地区役員会	役員 副支部長	くすのきセンター
2. 6	滋賀県看護協会第 5 地区 全世代型地域包括ケア推進フォーラム	役員 副支部長	くすのきセンター
2. 13	滋賀県がん医療フォーラム がん患者の COVID-19 対応	一般参加	視聴
2. 25	FM 彦根収録① 「もしもがんといわれた時に心がけたいこと」 ～つらいきもちとの向き合い方、 医療者とのかかわり方～	演者	彦根市立病院
2. 25	FM 彦根収録② 「もしもがんといわれた時に心がけたいこと」 ～情報の探し方、生活や暮らしに ついて考えておくこと～	演者	彦根市立病院
2. 25	FM 彦根収録③ 「家族ががんになったとき」 ～患者さんと家族を支える 3 つの ヒント～	演者	彦根市立病院
3. 18	がん相談支援センター相談員 フォローアップ研修	企画・運営・ ファシリテーター	彦根市立病院 ZOOM

3. その他

相談状況（2020.4月～2021.3月） 1,049 件（がん相談含む）

認定看護師業務

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
STAS-J 対応	5	6	11	13	11	18	25	22	21	132
緩和ケアチーム回診	7	6	6	8	4	4	4	5	5	49
緩和ケア外来対応	12	9	9	14	12	10	16	17	25	124
緩和ケア受診・入院相談	19	20	23	28	11	17	11	22	26	177
一般外来対応	4	0	15	12	10	13	7	15	16	92
一般病棟対応	14	13	16	26	17	29	30	21	29	195
合計	61	54	80	101	65	91	93	102	122	769

がん患者指導管理料イ（500 点）82 件

がん患者指導管理料ロ（200 点）124 件

4. 所感

H30年度より、緩和ケアチーム専従、がん相談支援センターのがん専門相談員になり、院内外を問わず、がん患者や家族、スタッフの相談にのり、丁寧な対応を心掛け、がん患者が満足した療養生活が送れることを目標として活動してきた。また、昨年度より2年間に渡り、滋賀県看護協会第5地区副支部長となり、フォーラムでがん相談支援センターの取り組みについて話し、彦根市立病院のがん相談支援センターを地域医療者へも広めるように活動した。昨年度よりがん教育を始めるにあたり、彦根市教職員、2つの中学校に対してがん教育を行ったが、今年度はCOVID-19により、研修会の開催が困難であった。また両立支援相談会や、がん患者サロンりらくも一時的には再開することが出来たが、現在は中止している。患者対応や、会の持ち方、研修会の開催に関して、模索した1年であった。ZOOMでの参加、開催など今後も考慮する必要性を感じた。

ACPに関しては、院内の臨床倫理委員、看護部倫理委員会の担当として、ACPの導入から周知に向けて活動した。市民へも広まるように、かがやき通信でも原稿を記載した。次年度はACPがさらに広まるように取り組み、患者や家族の意思決定支援ができるように取り組んでいきたい。

COVID-19対応で病院やスタッフが、がんばって対応している中で、休日COVID-19本部やトリアージ、ワクチン接種手伝いなど、慣れないが、出来る範囲で対応する様に心がけた。

次年度より、緩和ケア病棟へ異動となった。コロナ禍で、対応に苦慮する中ではあるが、この4年間の経験を活かして、安心して療養し、利用して頂ける緩和ケア病棟を目指して運営していきたい。

1. 院外学会・研修会参加

日 付	内 容	会 場
11. 6	日本手術看護学会	Web 開催
12. 4、12. 5	日本手術医学会	サンポート高松
1. 25	新型コロナウイルスを正しく理解し、正しくおそれるための心得 新型コロナウイルス感染症看護職にできること	滋賀県看護研修センター

2. 所感

新型コロナウイルスは、2020年世界で猛威を振るい、拡大し蔓延した。8A病棟は2020年4月に新型コロナウイルス患者を受け入れることになった。新型コロナウイルス患者は、呼吸状態が悪化し急変するリスクが高い。急変時に対応するために気管内挿管や動脈ラインの管理の知識・技術を必要とする。気管内挿管は暴露リスクが最も高い。病棟看護師に対して急変時の技術・知識を身につけ、安全に自信をもって出来るように対応をした。また新型コロナウイルスに感染した患者の周術期の対策を行った。

日本手術看護学会は、2020年周術期看護を「患者、家族が手術を決定したときから、手術室へ入室し、手術の準備から術中、手術を終えて、手術室を退室し、手術侵襲から回復するまでのプロセスに関わる看護とする。」と定義付け、手術室看護師の役割も拡大している。手術室看護師は周術期にある患者に対して、術中を中心として、安全・安心な看護を提供していく必要がある。

新型コロナウイルスが拡大・長期化している中で医療現場では、患者とスタッフの安全の確保と看護の質を維持することがより一層求められている。最新の知見を考慮しながら、感染対策をいかに具体化していき、手術患者と医療従事者の安全を確保していくことが最重要課題といえる。部署は異なっている、周術期の看護を繋いでいけるような認定活動を今後も目指していきたいと考える。

1. 教育活動

日付	内容	対象者
7. 3	滋賀県立総合保健専門学校 母性看護学Ⅰ（婦人科がん）	看護学生
7. 7	滋賀県立総合保健専門学校 母性看護学Ⅰ（乳がん）	看護学生
9. 26	講演：京滋ブレストケアセミナー 「進行・再発乳がんの内分泌療法」	京都・滋賀・福井看護師 Web セミナー
11. 10	司会：チームで取り組む乳がんの化学療法	湖東・湖北看護師 Web セミナー

2. 学会学術総会・研修

日付	学会	参加方法
10. 15	第 28 回日本乳癌学会学術総会	Web 参加
11. 22	第 30 回日本乳癌検診学会学術総会	Web 参加
11. 14	大阪大学スキルアップセミナー がん看護能力スキルアップセミナー	Web 参加
11. 28	第 18 回日本乳癌学会近畿地方会	Web 参加
2 月	第 3 回避本がん看護学会学術総会	Web 参加

3. 地域活動

日付	会議	参加方法
7. 30	第 1 回湖東医療圏 ACP プロジェクト	会議 Web 参加
9. 18	第 2 回湖東医療圏 ACP プロジェクト	会議 Web 参加
1. 5	第 3 回湖東医療圏 ACP プロジェクト	会議 Web 参加
3. 5	第 4 回湖東医療圏 ACP プロジェクト	会議 Web 参加

4. 所感

乳腺外科外来を中心に、乳がん検査・診断・治療を受ける乳がん患者さん・家族のサポートを行っている。乳がん患者さんは、社会、家族役割が大きい壮年期の女性に多く発症するため、患者本人はもちろんパートナー、ご家族、周囲が受ける衝撃や心理的負担は大きい。治療法も多岐に渡り混乱をまねくことも多く、治療法の補足説明や予測できる生活の変化を伝え、身体的・心理的・社会的支援を行っている。

今年度は、COVID-19 感染拡大により医療現場も大きく変化し、乳がんの早期発見の機会となる集団検診の減少など情勢の変化があった。「感染症患者を受け入れる病院で手術をする」という不安を抱える事例もあったが、当院の感染対策を伝え、安心して治療が受けられる環境である事を理解いただき支援を行った。今後も受診控えにならないよう、健診も勧め早期発見治療につながるよう活動していく。

I. 学術活動

1. 学会発表

発表者名	演題	学会名	会場	日付
北川智美	シンポジウム 特定看護師と NPWT	第 22 回日本褥瘡 学会学術集会	神戸コンベン ションセンター	9. 11
北川智美	教育公演 スキンケアと臨床	第 22 回日本褥瘡 学会学術集会	神戸コンベン ションセンター	9. 11
西村紀子	がん終末期における ポリウレタンフォーム ドレッシング貼付による 褥瘡予防効果の検討	第 22 回日本褥瘡 学会学術集会	神戸コンベン ションセンター	9. 11

2. 誌上発表

①北川智美：調剤と情報

「薬剤師はどう向き合う？患者背景から考える高齢者の皮膚管理」在宅でのケア 医療機器を用いている場合のスキンケア

2020. 26 巻 6 号 P1341-5212 2020 年 5 月発行 じほう出版社

II. 院内諸活動

1. 褥瘡管理

- 専従の褥瘡管理者による褥瘡発生のリスクが高い患者に対する予防ケアを推進するための回診を実施。
- 既に褥瘡を有する患者に対しては、褥瘡対策チーム（専任医師・専任看護師・専従の褥瘡管理者）と褥瘡・創傷対策部会のメンバー（管理栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカー）による褥瘡回診を毎週 1 回実施し、局所管理だけでなく、排泄ケアも含めたケア方法の検討、栄養状態を始めとした全身状態の把握と調整を行っている。褥瘡ハイリスクケア加算算定患者数と褥瘡発生数の推移を以下の図 1 および表 1 に示す。

図 1：持ち込み褥瘡と院内発生の推移

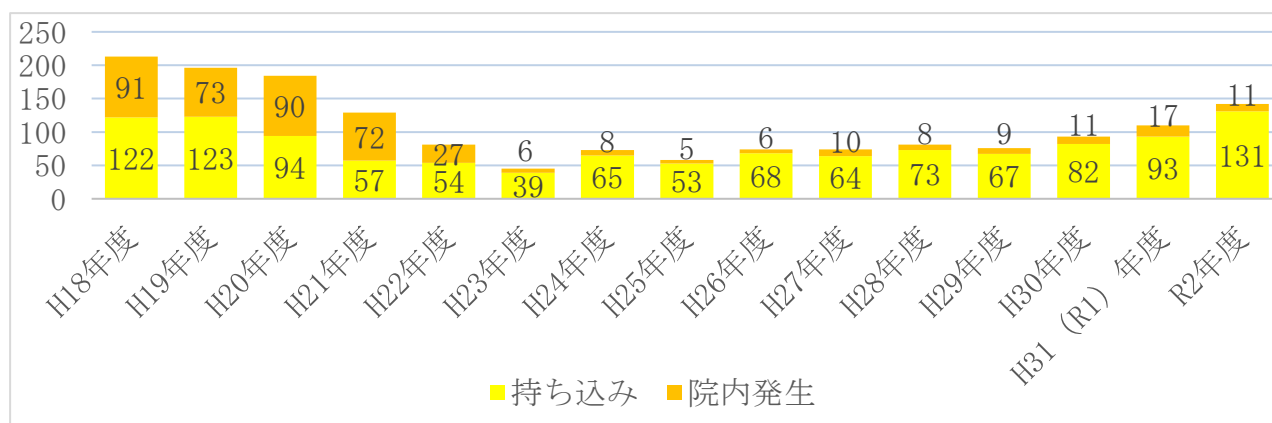


表 1：褥瘡ハイリスクケア加算算定件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
算定 件数	82	81	102	105	83	119	112	128	103	107	110	129	1,261

2. 排尿ケアチームの活動

- 毎月 2 回排尿ケアチームのメンバー（専任の泌尿器科医師 1 名・専任の看護師 3 名・専任の作業療法士 2 名）によるカンファレンスと病棟ラウンドを実施し、排尿自立に向けた包括的ケアプランの検討や評価を実施。2020 年度から退院後も介入が必要と判断された患者に対して、外来介入も開始となり、退院後の排尿自立に向けたチーム介入も行っている。排尿自立支援加算患者数を表 2 に示す。

表 2：排尿自立支援加算、外来排尿自立指導加算算定件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
介入 人数	15	10	21	21	35	26	31	31	24	24	24	26	268
入院中 算定数	18	15	25	28	50	34	41	42	36	34	26	39	388
外来 算定数	0	2	2	1	1	0	3	1	2	0	0	1	13

3. スキンケアリンクナース会の運営

	主な活動内容	スキンケア通信
4 月	昨年度の褥瘡発生、スキントラブルの発生の要因と予防策 おしり洗浄剤 Neo の導入、使用方法について 日常生活自立度とブレーデンスケールについて	陰部洗浄方法が変わります
5 月	フットケアについて 病棟での褥瘡対策における書類の入力と予防ケア実態調査	フットケアチーム指導します
6 月	院内褥瘡発生の要因と検討（4 件） スキンテア予防について スキンテア予防に対するリーフレット作成	退院後も継続できるスキンテア予防
7 月	失禁関連皮膚炎について	失禁関連皮膚炎（IAD）を予防しよう
8 月	院内マットレス調査 病棟でのスキンテア予防策の実態調査 下肢のポジショニングの使い方	かかと守ってお尻守らず？
9 月	スキンテア予防ケア調査 褥瘡周囲皮膚の洗浄について 褥瘡予防・ケアではいけないこと	知っていそうで意外と知らない 「褥瘡ケアの豆知識」
10 月	9 月の褥瘡発生の要件と検討（1 件） シーツの敷き方と褥瘡発生の関係について	シーツはルーズにケアは丁寧・・・ 「シーツはピンと張らない！」ルーズフィットに！ハンモッグ減少は褥瘡発生のリスクです

11 月	皮膚・排泄ケアに関連する在宅療養指導料の算定について 便秘に対するケアについて	皮膚・排泄ケアに関連した在宅療養指導料の算定
12 月	病棟でのスキンテア予防策の実態調査 皮膚の乾燥と痒みについて 車椅子クッション「アウル REHA ジャスト」導入（20 個） 泌尿器に関する薬剤とその効果 膀胱の廃用性委縮に対する対応	この薬をみたら排尿ケアチームへの介入依頼を
1 月	スキンテア予防ケア調査 1 月の褥瘡発生の要因と検討（2 件） 踵の褥瘡予防について	かかと注意報
2 月	2 月の褥瘡発生の要因と検討（1 件） 持ち込み褥瘡患者の退院調整について 剥離剤払い出し調査 フットケアチームアンケート実施 標準マットレス入れ替え（60 枚）	標準マットレス「エバーリーフ」の特徴と体圧分散マットレスの選択方法
3 月	活動の振り返りと次年度の課題の抽出 抗がん剤が皮膚に与える影響について スキンテアリスクアセスメントツールについて	抗がん剤治療と皮膚障害

4. 院内の看護職を対象とした教育活動

日付	研修内容	対象者
4. 8	皮膚排泄ケア	ラダーⅠ
12. 10	実践に役立つ排尿スキルアップ研修	ラダーⅡ～Ⅲ選択領域
2. 5	ポジショニング	ラダーⅠ

1. 7B 病棟教育活動（7B 病棟スタッフ対象）

日付	内容	講師
8 月	DPC 学習会	伊部恵美子
10. 14	モニター心電図	早崎有紀
10 月	整形外科	角田亘
10 月	糖尿病について	黒江彰
10 月	糖尿病 フットケア	阪江舞
10 月	糖尿病について	阪江舞
11. 11	リハビリテーションについて	北川岳史

2. フィードバックカンファレンス、事例検討会

日付	内容	参加者
7. 10	医療的ケアの多い患者の退院支援	病棟看護師、MSW、訪問看護、在宅診療科 ケアマネジャー
7. 17	心不全患者の退院支援、	病棟看護師、訪問看護、ケアマネジャー
10. 1	がん終末期患者の退院支援	病棟看護師、MSW、訪問看護
10. 2	在宅看取り患者の退院支援	病棟看護師、MSW、訪問看護、ケアマネジャー
10. 29	日中独居の認知症患者の退院支援	病棟看護師、MSW、ケアマネジャー

事例検討会：倫理的支援を中心に 2 事例開催

3. 院外研修・学会参加

日付	内容	場所
4 月	令和 2 年度診療報酬改定（訪問看護）	Web 開催
11. 13、14	在宅看護学会	Web 開催
11 月	日本看護学会学術集会	Web 開催
11. 29	訪問看護認定看護師連絡協議会 「COVID - 19 感染対策について」 「コロナ暦のある利用者への訪問看護の提供」 「新型コロナウイルス感染拡大におけるステーション の運営と地域での取り組み」	Web 開催

4. 所感

2019 年より 2 年間地域包括ケア病棟に勤務し、3 月より訪問看護ステーションに異動となった。2020 年はコロナ感染拡大防止のため、面会や外出泊が制限された。感染状況を確認し、学習会やフィードバックカンファレンスを開催した。自宅退院支援を振り返り、連携することの大切さを学ぶことができた。病棟編成の変更に伴い、学習会を開催しスタッフの看護実践能力向上に努めた。以上の経験をふまえ、訪問看護では、病院との連携を図り療養者の生活を尊重し、療養者本人と家族を支え『やっぱり家に帰って良かった』と感じてもらえる看護を提供していきたいと考える。

〔Ⅰ．学術活動〕

1. 論文投稿

表題	投稿先
急性期病院において危険行動により薬物療法を受ける認知症高齢者のケアに関わる看護師の認識 Perceptions of Nurses Involved in the Care of Elderly People with Dementia Undergoing Drug Therapy Due to Risky Behavior in Acute-care Hospitals	大阪府立大学紀要 27 巻 1 号

2. 学会・研究会・研修参加

日付	学会・研究会・研修名	会場名
6. 7	大阪府立大学大学院老年看護学事例検討会	Web 開催
6. 20	日本老年看護学会 第 25 回学術集会	誌上開催
7. 6	大阪府立大学大学院老年看護学事例検討会	Web 開催
8. 1	大阪府立大学大学院老年看護学事例検討会	Web 開催
9. 5	講演「急性期病院からの退院 訪問看護との連携」	情報センター
9. 18	認知症 Web 研修会 「認知症と家族が地域で安心して暮らし続けるために」	くすのきセンター
9. 27	第 14 回関西 GCNS 事例検討会	Web 開催
10. 4	大阪府立大学大学院老年看護学事例検討会	Web 開催
10. 24	大阪府立大学大学院老年看護学事例検討会	Web 開催
12. 12	大阪府立大学大学院老年看護学事例検討会	Web 開催
2. 7	大阪府立大学大学院老年看護学ゼミ	Web 開催

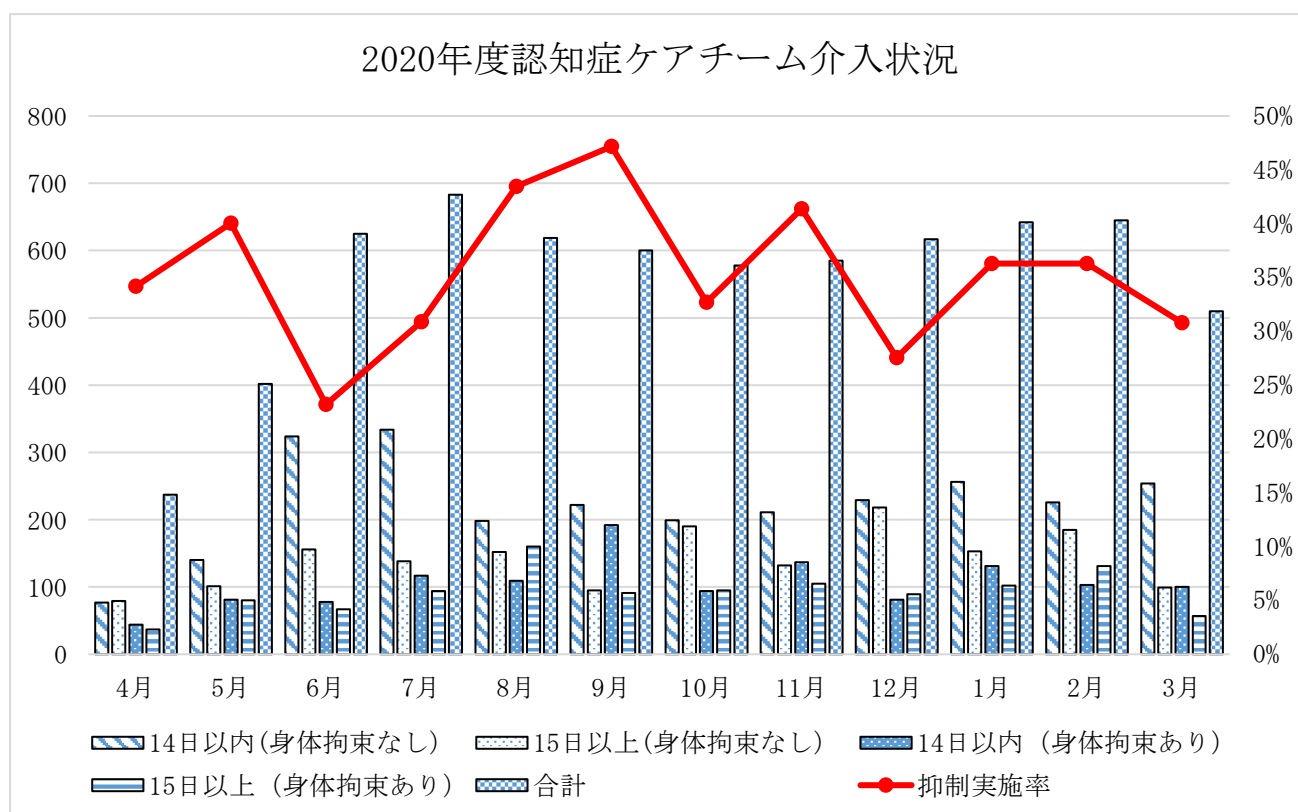
〔Ⅱ．院内諸活動〕

1. 認知症ケアチーム活動

・ 認知症ケアチーム定期会議開催

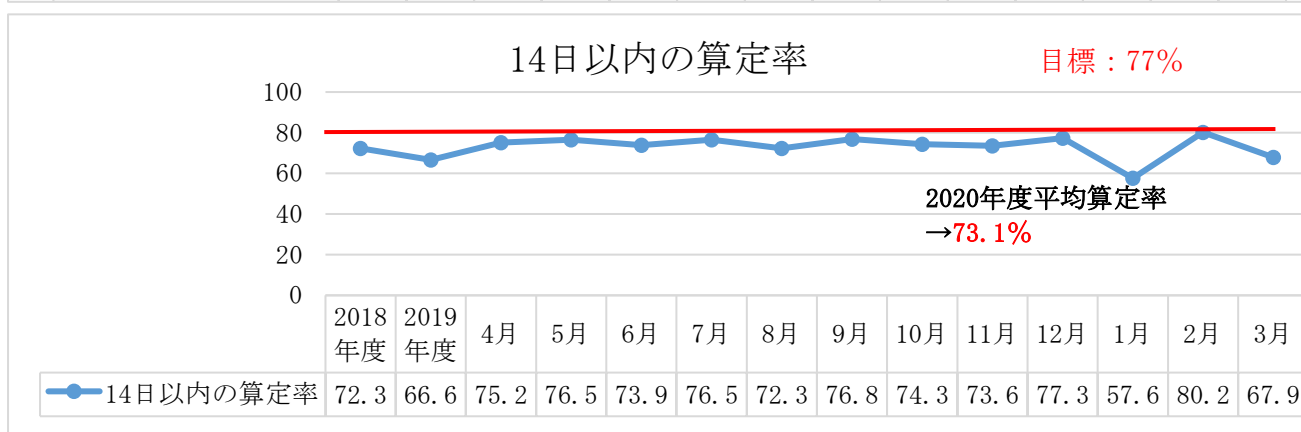
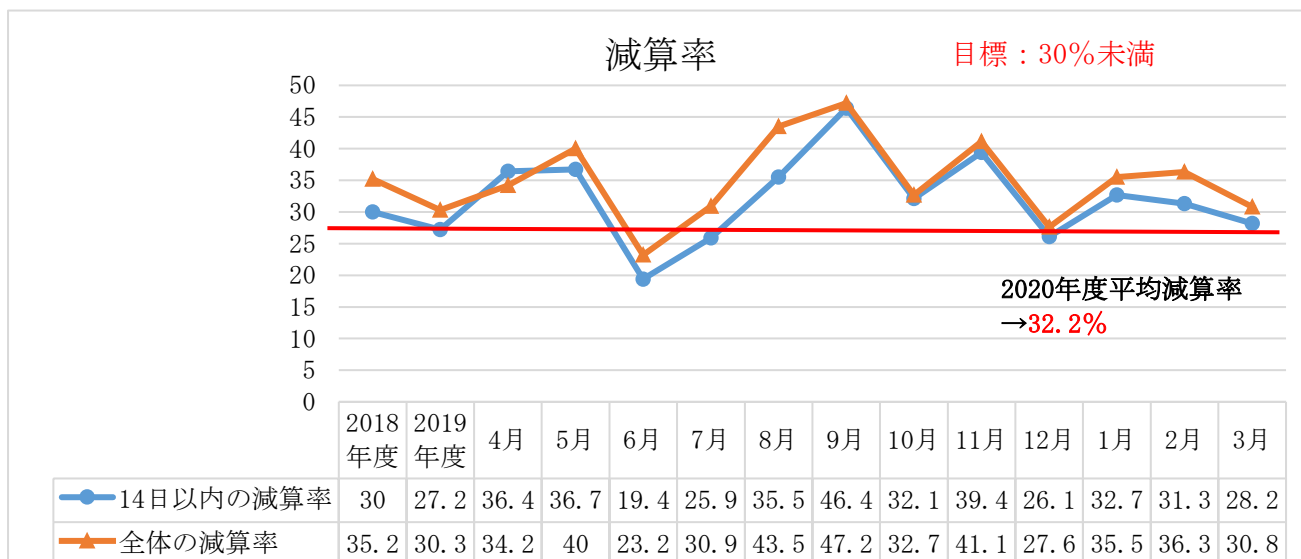
日付	開催場所
第 1 回 6. 18	図書室
第 2 回 9. 23	図書室
第 3 回 12. 18	図書室
第 4 回 3. 19	3-1 会議室

・チームラウンド、病棟カンファレンスの実施



・診療報酬重点5項目 2020 の活動

日付	内容	開催場所
4.30	診療報酬 2020 会議	3-1 会議室
5.20	院長ヒアリング	院長室
5.28	5 月病床運用会議	講堂
7.20	院長ヒアリング	院長室
7.29	7 月病床運用会議	講堂
9.18	院長ヒアリング	院長室
9.25	9 月病床運用会議	講堂
10.20	松阪病院来院プレゼンテーション	3-1 会議室
11.17	院長ヒアリング	院長室
11.26	11 月病床運用会議	講堂
1.25	院長ヒアリング	院長室
1.28	1 月病床運用会議	講堂
3.17	院長ヒアリング	院長室
3.24	3 月病床運用会議	講堂



・認知症ケアチーム研修

日付	内容	開催場所
第5回 1.23 17:30～19:00	第5回認知症ケアチーム研修 特別講演「多職種で取り組む せん妄対策」 講師 岡山大学病院 井上真一郎先生	講堂
第6回 2.12 17:30～18:30	第6回認知症ケアチーム研修 「各年代及び認知症患者の睡眠の特徴」 講師 OT 大塚武司	講堂



第5回 認知症ケアチーム研修
特別講演 「多職種で取り組むせん妄対策」
 講師 日本をリードする 岡山大学病院 精神科神経科 井上真一郎 先生
 日時: 10月23日 17時30分～
 場所: 講堂 3-1 3-2
 臨床現場でのその場の対応(薬剤の処方例、使い分け等)を具体的に解説いたします。
 皆様のご参加をお待ちしています。

・院内デイケアの開催

COVID-19 感染対策のため 4 回のみ開催

週 1 回（水曜日） 15 時～16 時 30 分

1 回につき約 7～8 名の患者が参加

参加中、つなぎ服以外の抑制ははずし、急性期病院であっても患者が自分らしく穏やかに過ごせることを重視し、その環境を提供

看護師、作業療法士、約 3～4 名のボランティアで実施

日付	参加者	内容
7. 1 7. 8 7. 15 7. 22 (4 回)	男性：12 名 女性：22 名 合計：34 名	・リアリティオリエンテーション ・歌(季節の歌) ・体操 ・ゲーム ・創作(カレンダー作り、壁画作り、うちわ作り、ぬりえ など) ・ボランティアさんからの出し物



2. 認知症ケアリンクナース会の運営

2019 年度より発足し、14 部署よりリンクナースを選出。COVID-19 感染対策のため 7 月・8 月は中止となったが、学習会、事例検討、各活動の実施、成果発表会等を行った。

日付	内容	開催場所
第 1 回 5. 1	目標、年間目標、活動内容、認知症ケア加算の説明	3-1 会議室
第 2 回 6. 4	コアメンバーでのみ実施	図書室
第 3 回 7. 10	COVID-19 感染対策のため中止	
第 4 回 8. 14	COVID-19 感染対策のため中止	
第 5 回 9. 17	事例検討会 GW	3-1 会議室
第 6 回 10. 1	事例検討会 GW	3-1 会議室
第 7 回 11. 5	事例検討会 GW	3-1 会議室
第 8 回 12. 3	事例検討会 GW	講堂
第 9 回 1. 7	事例検討会 GW、せん妄への対応 CVD 鑑賞 GW	3-1 会議室
第 10 回 2. 4	成果発表会	講堂
第 11 回 3. 4	成果発表会	講堂

3. 院内研修 講師担当

日付	内容・テーマ	開催場所
4. 2	新入オリエンテーション「専門看護師について」	講堂
6. 29	5A 病棟研修会「せん妄のキホンのキ」	5 階 CF ルーム
8. 17、31	ラダーⅢ研修「看護倫理」 COVID-19 感染対策のため中止	
9. 28	6A 病棟研修会「認知症のキホンのキ」	6 階 CF ルーム
9. 29	4B 病棟研修会①「お薬のはなし」	4 階 CF ルーム
1. 19	4B 病棟研修会②「薬物療法におけるケア 事例検討」	
11. 24	8B 病棟研修会①「せん妄①」	
12. 22	8B 病棟研修会②「せん妄②」	8B ナースステーション
1. 19	8B 病棟研修会③「認知症①」	
11. 25	ラダーⅠ研修「認知症看護」	講堂
11. 27	ラダーⅡ研修「看護倫理」	講堂
1. 6、13、 20、27	看護補助者・MH・クラーク合同研修 「認知症患者へのケア」	講堂
1. 18	ラダーⅠ研修「認知症看護」補講	3-1 会議室

〔所感〕

認知症ケアチームでの活動を中心に院内における認知症ケアの質の向上を目指し活動を行った。今年度は、コロナウィルス感染対策のもと、大幅な計画内容の変更・中止を余儀なくされた。特に院内デイケアでは4回の開催にとどまった。

チームの運用については、チーム医の退職に伴ってチーム存続の危機的状況となり、運用において再構築が求められたが、新たな医師の加入により、現在の事象・課題に対するその要因を総合的・科学的にチームでアセスメントし、根拠ある対応を検討する機会を作ることができた。せん妄に対しても、タイムリーな対応によって睡眠障害や治療の停滞、身体損傷を回避できた事例が増え、病棟からのコンサルテーションも増加した。外部講師を招聘し、せん妄に対する関心や知識も高まったと言える。しかし、薬物療法などの医療的な対応に偏重している傾向があり、ケアチームとしての役割を果たせたとはいえない。個別的な対応が求められるものの、標準的な対応が定着しておらず、早期から看護師自身が評価・判断し予防的に介入できるよう、指標の作成や支援を行っていくことが今後の課題である。また、コロナ禍における様々な制限の中で、入院による認知症患者への影響が顕在化した一年でもあった。リンクナース教育の強化を軸に患者視点での課題の捉え方へシフトし、その課題の解決・改善にむけた具体的なケアが日々展開できるよう、助言・支援していきたい。

さらに、今年度は「診療報酬重点5項目」の1つに選定されたことで、現状を可視化することができ、課題や目標が明瞭となった。目標を達成することはできなかったが、リンクナースの啓発活動もあり算定率は大幅に上昇することができた。来年度は経済的な成果だけでなく、早期の介入が可能となることでケアの質の向上に繋がっていくよう、効果的な指標のもと常に活動を評価しながら実践していきたい。

18. ボランティアの方によるリラクゼーション座

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、令和2年度は中止いたしました。

19. 第11回 彦根市立病院ふれあいまつり

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、中止いたしました。

20. 出前講座

令和2年度 1回

6/30、7/22、8/27、9/2 中止

日時	場所	講師	テーマ
8月25日（火）	四番町スクエア2階会議室	瀧口 美津子	店舗における感染症対策

21. 訪問看護ステーション事業

ア. 利用状況

	利用者総数	新規利用者数	延べ訪問回数
医療保険	53 人	24 人	744 回
介護保険	152 人	12 人	3,629 回
合計	205 人	36 人	4,373 回

◇ 上記とは別にグループホームとの医療連携による訪問が 52 回あり。
対象は入所者 9 名。

イ. 年齢男女別利用者数

	0～ 6 歳	7～ 19 歳	20～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 ～ 89 歳	90～ 99 歳	100 歳～	合計
男	0	1	3	3	7	21	37	16	1	89
女	0	1	5	2	11	22	48	26	1	116
合計	0	2	8	5	18	43	85	42	2	205

ウ. 疾患別分類

区分	人数
がん	60 人
循環器系疾患	34 人
内分泌系疾患	18 人
難病	11 人
呼吸器系疾患	12 人
認知症	11 人
腎泌尿器系疾患	9 人
整形系疾患	14 人
消化器系疾患	7 人
脳血管系疾患	14 人
皮膚・皮下組織系疾患	6 人
血液・免疫機能系疾患	6 人
先天性奇形	3 人
精神疾患	0 人
合計	205 人

エ. 訪問看護内容（重複看護内容あり）

区分	人数
バイタルサイン・病状観察	205 人
介護者支援	150 人
内服薬管理	137 人
清潔ケア（清拭・入浴介助等）	78 人
排泄ケア	78 人
排便コントロール（摘便・浣腸等）	44 人
膀胱留置カテーテル管理	24 人
その他のドレーン・チューブ管理	7 人
リハビリ	45 人
褥瘡等の慢性創傷のケア	47 人
血糖測定	16 人
インスリン注射管理	16 人
呼吸ケア（吸引・吸入・肺理学療法等）	23 人
ストーマ・腎瘻ケア	13 人
在宅酸素療法管理	16 人
注射（皮下・静脈内）・点滴等	10 人
CV ポート管理	6 人
経験栄養（胃瘻・腸瘻等）管理	4 人
気管切開管理	5 人
人工呼吸器管理	2 人

オ. 看取り件数と場所

病院	27 人
自宅（施設を含む）	23 名

カ. その他

- ◇ 日本看護協会試行事業「訪問看護を提供する医療機関と訪問看護ステーションの連携に関する委託事業」に参加（2020 年 8 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）

22. 通院治療センター

“通院治療センター”の対象患者は外来で化学療法を受ける患者であり、ベッド数は今年度に1床増床し13床で運用している。主な利用者は悪性腫瘍で薬物療法を受ける患者、関節リウマチや炎症性腸疾患等で生物学的製剤を使用する患者である。

今年度は腫瘍内科が新設され、利用患者数は増加傾向である。治療内容に関しては、悪性腫瘍に対する従来の殺細胞性抗がん薬や分子標的治療薬に加え、新規の作用機序を有する免疫チェックポイント阻害薬が保険承認され適応疾患も拡大傾向であり、治療の高度化・専門化が進んでいる現状である。

1. 延べ件数

総件数 3,099 件

① がん薬物療法 2,973 件

② 生物学的製剤 121 件

③ その他 5 件

【科別件数】

① がん薬物療法

血液 内科	消化器 外科	乳腺 外科	腫瘍 内科	消化器 内科	泌尿器 科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	口腔 外科	脳外科	合計
907 (うち 皮下注 468)	482	402 (うち 皮下注 56)	329 (うち 皮下注 11)	202	224	210	141	68	8	2,973

② 生物学的製剤

消化器 内科	膠原病 内科	整形外科	合計
46	39	36	121

③ その他

循環器科	合計
5	5

2. 実質患者数

実質患者数 344 名

① がん薬物療法 321 名

② 生物学的製剤 23 名

【科別患者数】

① がん薬物療法

血液 内科	消化器 外科	乳腺 外科	呼吸器 内科	腫瘍 内科	泌尿器 科	消化器 内科	呼吸器 外科	脳外科	口腔 外科	合計
68	59	50	35	32	26	23	19	3	6	321

②生物学的製剤

消化器 内科	整形外科	膠原病 内科	合計
11	7	5	23

3. 疾患（部位）別 実質患者数

①がん薬物療法

疾患 (部位)	乳腺	肺	大腸	悪性 リンパ 腫	胆道 肝臓 膵臓	胃・十二 指腸	多発性 骨髄腫	骨髄 異形成 症候群	腎臓
患者数	56	54	48	34	32	25	19	12	10
疾患 (部位)	尿路 上皮	前立腺	頭頸部	原発 不明	脳腫瘍	その他	合計		
患者数	8	7	5	4	3	4	321		

②生物学的製剤

疾患	関節リウマチ	潰瘍性大腸炎	クローン	合計
患者数	12	9	2	23

4. 今年度の振り返り

当院は湖東医療圏のがん診療連携拠点病院であり、地域のがん診療において果たすべき役割は大きい。エビデンスに基づいたがん診療を提供する役割を担っており、新規殺細胞性抗がん薬・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬など最先端の治療を当センターでは行っている。

治療が高度化・専門化している中で患者数は増加の傾向にあり、安全で最適な治療を提供するためにチーム医療は欠かせないものとなっている。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・検査技師・ソーシャルワーカー等の多職種が連携して取り組み、全患者が専門的な治療を安心して外来で継続できることを目標に、患者の立場に立った真心のこもった治療を提供していきたいと考える。

23. 彦根市立病院新改革プランの推進について

「彦根市立病院新改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）は、滋賀県地域医療構想で湖東医療圏に求められる医療の提供体制を確保するため、平成 28 年度～令和 2 年度を計画期間として策定された。その中で当院は、不採算医療および高度・先進医療を担うため、経営の健全化が望まれてきた。

新改革プランの初年度である平成 28 年度の経常損益は▲943 百万円、翌 29 年度は▲413 百万円、翌々年の平成 30 年度には▲53 百万円まで損失が縮小したものの、令和元年度には▲106 百万円に拡大した。

その後、最終年度となる令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の流行に見舞われ、医業損益だけで見ても▲1,500 百万円と大幅に拡大した。当然、当初の計画より大幅に乖離した状態で、新改革プランの計画期間を終えた。

1. 目標設定と進捗管理

令和 2 年度も各部署で目標を設定し、達成に向けた取組を考え、実施し、院長ヒアリングで進捗管理を行った（表 1）。しかし、折からの新型コロナウイルス感染症のあおりを受け、達成できなかったものが多い。

併せて、診療報酬上の算定もれを防ぐ取組を、職種横断的な少人数のチームで遂行する「落穂ひろい」も、令和元年度から始め、変わらず継続した。

概して、感染症の流行というイレギュラーな事態への対応に明け暮れた一年となり、新改革プランの最終年度としては評価の難しい年となった。

表 1 院長ヒアリング

	日 付	内 容
第 1 回目	2020 2/18、2/20、2/28、3/6、3/10、3/12、3/24、3/31	令和元年度の振り返り 令和 2 年度の目標設定
第 2 回目	2020 10/27、11/2、11/4、11/5、11/9、11/13、11/19、11/20、11/26、11/27	令和 2 年度の目標の中間 評価

2. 経営推進会議

令和元年度に続き、当院の健全な経営推進とともに、職員の経営意識の高揚を図ることを目的として年 2 回、経営推進会議を開催した。

会議では、診療部長および各所属長向けに、新改革プランの実績および次期中期経営計画について報告を行った（表 2）。

表 2 経営推進会議

	日 付	内 容
第1回目	2020 9/23	・平成 28～令和 1 年度の経営実績について ・令和 3 年度からの中期経営計画（案）について
第2回目	2021 3/15	・中期経営計画（案）の取組 10 項目のワークプランについて ・委員会・会議体の再編について ・今年度の決算見込みについて

3. 新改革プラン評価委員会

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、10 月に書面決議にて委員会を開催した。例年どおり資料を作成したのち、院外の委員に郵送し、質問や意見等の返信をいただいた上、院内の委員を中心に回答を作成した。

委員会の資料については、院外の各委員に送付するとともに、当院のホームページにも掲載し、広く閲覧に供している。

24. 彦根みずうみの会活動報告

彦根みずうみの会は平成 26 年 3 月に発足した糖尿病患者の患者会です。
会員数は患者さん 20 名、スタッフ 26 名の計 46 名です。(令和 3 年 3 月現在)

【第 6 回 滋賀県糖尿病ウォークラリー】

開 催 日：令和 2 年 11 月 8 日（日）

開催場所：草津市 矢橋帰帆島公園

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止